

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

#### 科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

#### 学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

#### 内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

#### 評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

#### 科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

#### 学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

#### 内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

#### 評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

#### 科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

#### 学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

#### 内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

#### 評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（応用）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

#### 科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

#### 学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

### 内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

### 評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で60点以上を合格とします。

### 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	ディベート		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

#### 科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

#### 学修目標 (=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

#### 内容

授業は、3クラス同時進行し、適宜3クラス合同1教室で行うこともあります。

1	導入：デーベートとは (3クラス共通)
2	ディベートのしくみ
3	ディベートの流れ
4	ディベートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法 (3クラス共通)
10	課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス代対抗ディベート
15	まとめ クラス対抗ディベート

#### 評価

3回の課題20%×3とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で復習

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ディベート		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指しています。

#### 科目の概要

特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

#### 学修目標 (=到達目標)

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互に見出していこうとするものです。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分です。

#### 内容

授業は、3クラス同時進行し、適宜3クラス合同1教室で行うこともあります。

1	導入：デーベートとは (3クラス共通)
2	ディベートのしくみ
3	ディベートの流れ
4	ディベートの目的と立論
5	課題：データカードの提出
6	論題の内容理解
7	論題の検討と分析
8	反論の準備
9	評価の方法 (3クラス共通)
10	課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11	課題による立論強化
12	フローシート作成
13	フローシート完成
14	課題 クラス代対抗ディベート
15	まとめ クラス対抗ディベート

#### 評価

3回の課題20%×3とディベート実践(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】1時間。前週に指定された課題を検討

【事後学修】チェックされた部分の訂正を30分程度で復習

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』あさ出版

【推薦書】

【参考図書】



科目名	情報倫理		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

1年次に履修した「ニュースと社会」はニュースを読み解くことが主眼だった。ニュースを情報と置き換え、憲法で保障された表現の自由を中心に据えながら情報とは何かを理解する。情報処理など専門科目を学ぶ上で情報の基本的な理解を身に付ける。

##### 科目の概要

情報をやり取りする自由が現代日本でどのように保障され、制約されるかを憲法の「表現の自由」から読み解き、情報についての理解を深める。またネット社会の中で必要な情報を迅速かつ的確に得る能力を養うために、ニュースの読み比べや過去の報道事例を参考にしながらメディアリテラシーについて考える。さらにプライバシー侵害など情報にかかわる多くの問題が生起している現状を把握し、自らが被害者にも加害者にもならない対応を学ぶ。

##### 学修目標 (= 到達目標)

ソフトウェア操作、インターネット活用、データ管理など専門的な情報処理技術を身に付ける前提として、表現の自由を出発点に、法的、制度的な側面から情報に関する基礎的な理解を深める。また、情報の「賢い受け手・送り手」となる基礎を習得する。

内容	
1	授業ガイダンス、情報に関するアンケート (第1回)
2	情報の定義、表現活動の歴史
3	憲法における「表現の自由」の保障 1
4	同 2
5	表現の制約 1
6	同 2
7	課題提示によるレポート作成
8	新聞各紙の社説・論説読み比べ 1
9	同 2
10	同 3
11	過去の報道事例から考える 1
12	同 2
13	情報にまつわる事件、トラブル事案から学ぶ 1
14	同 2
15	課題提示によるレポート作成、情報に関するアンケート (第2回)

#### 評価

授業への参加度50%、中間時の課題評価20%、最終回の課題評価30%を目安として評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】日々のニュースのチェック、授業中に指示した資料の読み込み

【事後学修】日々のニュースのチェック

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定の教科書は使わないが、必要に応じて指示する

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書等】日刊新聞

科目名	メディア文化論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本講義では、「メディア」というものが社会においてどのような文化的基盤として機能しているのかを考えていく。書籍、ラジオ、テレビ、インターネットといったさまざまな媒体の形をとりながら、メディアは私たちの社会において「文化」、「コミュニケーション」、「ネットワーク」、「コミュニティ」などのさまざまな機能を果たしている。本講義では、伊藤守編『よくわかるメディア・スタディーズ』を教科書としながら「メディア文化」について広く学んでいく。受講者それぞれが、教科書のなかから関心のある項目を選んで発表し、その内容について受講者全員で討論し、毎回、ミニレポートを作成してもらう。

#### 内容

1. メディア文化論とはなにか？
2. メディアの物質性と歴史性
3. 文字メディアの誕生
4. 音声メディアの誕生
5. 映像メディアの誕生
6. インターネットとウェブ
7. メディア社会の構造
8. メディア産業とその特徴
9. メディア文化のグローバル化
10. メディアの表象 ( 1 ) 人種
11. メディアの表象 ( 2 ) ジェンダー
12. メディアの表象 ( 3 ) 若者
13. メディア文化と都市空間
14. メディアの政治経済学
15. まとめ

#### 評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

#### 授業外学習

- 【事前予習】教科書の指定された範囲を読んでおくこと
- 【事後学修】授業の内容を踏まえて具体的な事例について考察してみることに

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

##### 教科書

伊藤守・よくわかるメディア・スタディーズ・ミネルヴァ書房

その他、必要な教材については授業内で適宜、説明します。

科目名	放送概論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・放送の役割や課題について学び、テレビなどの放送メディアとのかかわり方を考える。

科目の概要・・・私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、私たち一人ひとりが情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。放送を取り巻く環境の変化や放送の歴史を学び、放送現場で働く人々の姿を知ること、私たちは放送とどのようにかかわれば良いのかを考えていく。外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

学修目標(=到達目標)・・・自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢を身につける。

内容

1	放送とはなにか
2	放送の歴史
3	放送は何を伝えてきたか
4	視聴者は放送とどう関わってきたのか
5	テレビ番組を分析する
6	放送アーカイブス事業
7	放送の現場～報道と記者の仕事
8	放送の現場～アナウンサーの仕事
9	放送の現場～番組制作とコマーシャル
10	現代の放送番組の課題・問題点について議論する
11	放送とインターネットについて
12	放送技術の歴史(放送博物館)
13	メディア・リテラシー
14	放送の未来と私たちの暮らし
15	まとめ

評価

日頃の授業への取り組み(20%)ミニレポート(40%)期末レポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】プリントなど資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。

【事後学修】ミニレポートなどを書く。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】『データブック世界の放送2014』NHK放送文化研究所編 NHK出版

『改訂版メディア文化論』吉見俊哉著 有斐閣アルマ

『テレビ視聴の50年』NHK放送文化研究所編 NHK出版

『放送メディア研究』日本放送協会放送文化研究所

『叢書現代のメディアとジャーナリズム1～6』ミネルヴァ書房

『放送ウーマンのいま』日本女性放送者懇談会編 ドメス出版

科目名	環境と社会		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

1.2年生対象メディア群科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

地球閉居問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム (生態系) という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

環境問題の多様性を理解し、「環境学」の基礎を学ぶ。

内容	
1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点 ( 1 ) : 市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点 ( 2 ) : 生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり
6	国際協力体制の発展
7	環境問題における国際対立
8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

評価

レポート ( 60% )、試験 ( 40% ) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】関礼子他 『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；東京商工会議所編 『eco検  
定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年



科目名	環境と社会		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

1. 2年生対象メディア群科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム (生態系) という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

環境問題の多様性を理解し、「環境学」の基礎を学ぶ。

内容	
1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点 ( 1 ) : 市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点 ( 2 ) : 生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり
6	国際協力体制の発展
7	環境問題における国際対立
8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

評価

レポート ( 60% )、試験 ( 40% ) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】関礼子他 『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；東京商工会議所編 『eco検  
定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

科目名	アジア入門		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

韓国 ( 朝鮮半島 ) および中国を中心にしたアジアの近現代史を学ぶ

科目の概要

映画で学ぶ、アジア史。

学修目標 ( = 到達目標 )

現代社会に生きる日本人の基本的教養である、アジアにおける日本の歴史的な位置づけを理解する

内容

アジアと日本との国際的な近現代史を扱った、内外の映画資料を利用する。

基本的な進め方は、予習、映画視聴、映画の背景解説、というサイクルで行う。

1	はじめに
2	『安重根 伊藤博文を撃つ』 1
3	『安重根 伊藤博文を撃つ』 2
4	『プラザーフード』 1
5	『プラザーフード』 2
6	『JSA』 1
7	『JSA』 2
8	『希望の翼 あの時、僕らは13歳だった』 1
9	『希望の翼 あの時、僕らは13歳だった』 2
10	『阿片戦争』 1
11	『阿片戦争』 2
12	『北京の55日』 1
13	『北京の55日』 2
14	『南京1937』 1
15	『南京1937』 2 まとめ

評価

ほぼ毎回提出してもらう小レポートを100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】アジアに関するニュースや動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】玄武岩編著 『越境するメディアと東アジア』 勉誠出版

【参考図書】『あの時、ぼくらは13歳だった 誰も知らない日韓友好史』東京書籍 2011 [著]寒河江正、羅逸星

科目名	エンターテインメントメディア論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	マンガ・アニメ論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

戦後日本の代表的なポピュラー文化として、マンガとアニメーションは相互に影響を与え合いながら発展してきました。その結果、マンガやアニメは、「ソフト・パワー」として現在日本の産業を支える重要なコンテンツになっています。日本ではどうして、こんなにもマンガとアニメが普及したのでしょうか？ その歴史的な文脈を探りながら、わたしたちの社会や文化、日常生活の中でマンガとアニメが果たしてきた役割を、文化社会学的な視点から考察します。そのために、広く社会学、歴史学、文化研究、メディア論、表象論、文学理論など、分析のために役立つ理論や方法論を毎週の講義を通じて紹介していきます。最終的には、受講者が実際にレポートなどを作成する際に使えるような知識を学んでもらうことが本講義の目的となります。また、製作現場が実際にはどのように展開されているかを学んでもらうために、実際にマンガやアニメーションの製作に関わっている特別講師の方を招いて特別講義をしてもらうことになっています。

#### 内容

1. ポピュラー文化としてマンガとアニメをどう考察するか
2. 戦後マンガの歴史 ( 1 ) 手塚治虫が開いた世界
3. 戦後マンガの歴史 ( 2 ) 少年マンガの世界
4. 戦後マンガの歴史 ( 3 ) 少女マンガの世界
5. マンガと表象 ( 1 ) ジェンダーの視点から
6. マンガと表象 ( 2 ) 恋愛の視点から
7. マンガとその製作現場 特別講師の授業
8. 戦後アニメの歴史 ( 1 ) テレビアニメの世界
9. 戦後アニメの歴史 ( 2 ) SFアニメの世界
10. 戦後アニメの歴史 ( 3 ) アニメ映画の世界
11. アニメと表象 ( 1 ) ハイブリディティの視点から
12. アニメと表象 ( 2 ) テクノロジーの視点から
13. アニメとその製作現場 特別講師の授業
14. 「クール・ジャパン」現象を再検討する
15. まとめ

特別講師の講義日程によって、順番については多少の変更があります。

#### 評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書の指定された場所を読んでおくこと

【事後学修】授業で配布された資料などをノートにまとめておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

津堅信之・アニメーション学入門・平凡社新書

推薦書

大塚英志 + ササキバラゴウ・教養としての まんが・アニメ

米沢嘉博・戦後少女マンガ史 ・ちくま文庫

その他、必要に応じて、授業の中でテキストとプリントを配布します。



科目名	インターネット社会論		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

インターネットによる社会の変化とその問題点を理解する

##### 科目の概要

インターネットの登場は、既存の通信のあり方、産業、社会と国家のあり方は大きな変化をもたらした。またインターネットが大きな位置を社会において占めると共に様々な問題も発生してきている。こうした社会の変化やインターネットの問題点について考察する。

##### 学修目標 ( =到達目標 )

インターネットが社会にどのような影響を与えるか、またその結果、社会にどのような変化や問題が起こるかを理解し、インターネットの活用に資する思考力を身につけることを目標とする

#### 内容

- 1.オリエンテーション インターネット社会とは
- 2.インターネット社会の可能性 何ができるのか、「検索」、ネットショッピング、情報共有
- 3.インターネット社会の危険性 知識の断片化・希薄化、デマ、誹謗中傷、詐欺・犯罪、有害サイト
- 4.インターネットの影響1 ネットとメディア、新聞・テレビはなくなるのか
- 5.インターネットの影響2 ネットと本、本屋・本はなくなるのか
- 6.インターネットの影響3 ネットと音楽、CDは売れなくなるのか
- 7.インターネット社会1 電子取引社会、eコマース・ネットショッピング、経済のグローバル化
- 8.インターネット社会2 情報無料社会-産業再編、貧者への福音か格差の拡大か
- 9.インターネット社会3 情報発信-個人・地域・コミュニティからの情報発信
- 10.インターネット社会のあり方1 セキュリティ、パスワード
- 11.インターネット社会のあり方2 ネットをめぐる法制度、ネットの規制・検閲
- 12.インターネット社会のあり方3 監視社会
- 13.インターネットとグローバリズム・ローカリズム 国境はなくなるか・地域は結びつくか
- 14.インターネットと情報倫理 ネットケット、誹謗中傷、炎上現象
- 15.まとめ

#### 評価

授業での課題 ( 40% ) と小テスト ( 40% )、授業への参加度 ( 20% ) を総合し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業内容、政治行政に関連する時事問題等について予習する

【事後学修】授業で学習した内容を復習し、それについての自分の意見・考え方をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業において資料等を用意する。

科目名	メディア産業論		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

旧メディア4媒体 (新聞、出版、テレビ、ラジオ) のビジネスを軸とし、これと密接に絡む新領域メディアも俯瞰しながらメディアビジネスを概観しその理解に努める。メディアから発信されるコンテンツの重要性を押さえつつ、各メディア企業の良質のコンテンツ発信を支える「広告」の役割も見つめて、今後を展望する。

#### 科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境とともに、インターネット、電子書籍等の展開を学ぶ。これら新旧のメディア企業の生命線である広告ビジネスについても認識を深める。

#### 学修の目標

スマホが重宝される時代にあって、現代人が水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス的観点からメディアリテラシーを高める。メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容	
1	ガイダンス ( ネット社会における新聞の明日から説き起こす )
2	メディアの変貌の中のロマンとソロバン ( 紙とネット課金との二刀流時代 )
3	広告会社あつてのメディア企業 ( 電通等 )
4	全国紙の今
5	地方紙の今
6	通信社の今 ( 共同通信、時事通信 ) と地方紙
7	雑誌・出版界と編集者
8	紙の本ができるまで
9	電子書籍と本の未来
10	テレビ概説 ( 民放とNHK )
11	テレビの番組制作と視聴率
12	テレビキー局と系列局、独立局
13	ラジオ概説
14	エンターテインメントビジネス
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み70点、課題執筆30点の計100点で、60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目分類 マスメディアコースメディア理論群選択必修

概要：「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

目標：現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容	
1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト ( 40% ) および期末レポート ( 60% )

## 授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】ジョン・トムリンソン 『文化帝国主義』 青土社 361.6/T

田中浩編著 『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門選択科目として、人間のコミュニケーション行動に興味をもつ学生を対象とする。コミュニケーション行動を科学的に理解する基礎を身につける。

##### 科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

##### 学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

#### 内容

1. コミュニケーション行動と心理学
2. 対人コミュニケーションの成立
3. 対人コミュニケーションの特徴
4. 言語とコミュニケーション
5. 言語コミュニケーションの特質
6. 非言語メディアによるコミュニケーション
7. 自己開示の概念と領域
8. 自己開示が果たす機能
9. 自己開示を規定する要因
10. 自己呈示と社会的スキル
11. 防衛的自己呈示と主張的自己提示
12. 他者を動かすコミュニケーション ( 要請承諾・説得 )
13. 説得的コミュニケーションと態度変容
14. 要請技法と心理的效果
15. まとめ

#### 評価

授業内の小課題10点、テスト90点、の計100点満点により評価を行う

## 授業外学習

【事前予習】学習予定である教科書の該当章を読み、概要を理解するように努める

【事後学修】学習内容を整理し直すとともに、日常生活での身近な行動に当てはめてみる

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房



科目名	教育とメディア		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

#### 科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

#### 学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア ( 1 )
6	子どもと情報メディア ( 2 )
7	情報教育とメディアリテラシ ( 1 )
8	情報教育とメディアリテラシ ( 2 )
9	メディアを活用した新しい学習 ( 1 )
10	メディアを活用した新しい学習 ( 2 )
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発 ( 1 )
13	メディアを活用した教材の開発 ( 2 )
14	教材の評価
15	まとめ

#### 評価

各テーマ毎にレポート課題 ( 3 ~ 4 ) を合計 6 0 % と、教材開発 4 0 % で評価をおこなう。

## 授業外学習

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習

【事後学修】事後に実施する課題レポートの実施

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	政治とメディア		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 ( 社会 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 公民 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

2年生以上対象のメディア群科目として、政治についての情報の流れについて学ぶ。

人々が政治についての情報を入手する方法は色々ある。その中でも、職業として政治にかかわる人々 ( 政治家、官僚 ) も、素人として政治に参加する人々 ( 有権者 ) が最近特に注目しているのがマスメディアとインターネットメディアである。授業では、この2つを取り上げ、それぞれの特徴や問題点を議論する。また、情報のグローバル化が政治コミュニケーションに及ぼす影響についても考察する。

人々がメディアを通じてどのように政治情報を発信、受信しているか、発信している側の意図は何か、それを受信する側は何を感じるかなど、政治コミュニケーションの現状を理解する。

内容	
1	政治コミュニケーションとは何か
2	発信者と受信者の関係 ( 1 ) : 直接対話
3	発信者と受信者の関係 ( 2 ) : 間接対話
4	マスメディアの自由
5	マスメディアの制約
6	マスメディアと世論
7	インターネットメディアの発展
8	インターネットメディアの影響力
9	メディアの政治的影響
10	政治参加の方法としてのメディア ( 1 ) : 選挙キャンペーン
11	政治参加の方法としてのメディア ( 2 ) : 政治的動員
12	選挙報道
13	政治コミュニケーションの国際比較 ( 1 ) : 欧米諸国
14	政治コミュニケーションの国際比較 ( 2 ) : アジア諸国
15	まとめ

評価

レポート ( 50% )、試験 ( 50% ) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】マスコミやネットで伝えられる政治ニュースをフォローする。

【事後学修】授業で説明された分析的視点からニュースを分析する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】蒲島郁夫他 『メディアと政治』有斐閣アルマ 2007年

【推薦書】遠藤薫 『間メディア社会における世論と選挙』東京電機大学出版局 2011年

【参考書】平田オリザ、松井孝治 『総理の原稿』岩波書店 2011年

科目名	地域メディア論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

政治・行政などに関わる基礎知識を日本の課題・ニュースなどの時事問題に関連付けながら学ぶ

##### 科目の概要

政治的決定のルール、行政のしくみ、インターネットと政治行政、時事問題などを学ぶ。現在の課題(例えば、景気問題、少子高齢化と福祉の問題、財政赤字、憲法改正、原発再稼働、TPP、安全保障など)がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。

##### 学修目標(=到達目標)

現在の日本の課題を題材として政治行政の基礎知識を修得するのみでなく、その知識を生かして解決策を論じる力を身につけることを目標とする

#### 内容

- 1 ガイダンス 現在の日本を取り巻く諸問題と政治行政
- 2 現代日本政治の諸問題 安部首相の目指すもの-積極的平和主義、戦後レジームからの脱却、安全保障、外交
- 3 現代日本政治の諸問題 景気対策とアベノミクス、財政赤字、雇用問題
- 4 財政赤字と諸問題 財政赤字、福祉国家論と小さな政府
- 5 財政赤字と諸問題 財政危機と社会保障、地方自治体と社会保障、景気対策、ヨーロッパ・アメリカ
- 6 政治・行政とは 政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制-
- 7 政治・行政とは 行政のしくみ-中央省庁・地方自治体の役割-
- 8 前半まとめ
- 9 政策決定システム 選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度、長期政権と1年で交代する政権の違い
- 10 政策決定システム 法律ができるまで
- 11 政策決定システム 予算ができるまで
- 12 インターネットと政治 世論、ネット世論-SNS・掲示板、ネットと選挙と法規制
- 13 インターネットと行政 電子政府、国民総背番号制、個人情報漏えい
- 14 生活と政治行政 TPP、規制緩和、雇用問題、原発再稼働問題と「地方の合意」
- 15 後半まとめ

#### 評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業内容、政治行政に関連する時事問題等について予習する

【事後学修】授業で学習した内容を復習し、それについての自分の意見・考え方をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第3版』一藝社

岩井奉信『立法過程』東京大学出版会



科目名	国際関係論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 ( 社会 ) / 高等学校教諭一種免許状 ( 公民 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

2年生以上対象のメディア群科目として、国際社会の全体像を理解する。

国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物 ( アクター )、出来事 ( ストーリー ) という視点でとらえ、20世紀後半の国際問題の流れを再考する。その上で21世紀の国際社会が直面している問題の特徴を探る。新たな情報手段や科学技術の登場によって、これまでとは異なる国際問題が発生する可能性についても論じる。

国際社会の動きと日本、さらに日本国内で身の回りに起きている出来事との関連性を理解し、国際社会が日本から遠いところで、自分に関係なく動いているのではないことを学ぶ。

内容	
1	国際社会への視点：日本の役割
2	20世紀の国際関係 ( 1 ) : 冷戦の始まり
3	20世紀の国際関係 ( 2 ) : 冷戦の終結
4	地域紛争 ( 1 ) : 歴史
5	地域紛争 ( 2 ) : 現状
6	テロリズム
7	南北問題 ( 1 ) : 格差
8	南北問題 ( 2 ) : 貧困
9	環境問題 ( 1 ) : 地球環境問題
10	環境問題 ( 2 ) : 国際協力
11	人権問題
12	国際社会の協力関係 ( 1 ) : グローバリゼーション
13	国際社会の協力関係 ( 2 ) : リージョナリゼーション
14	21世紀の国際社会と日本
15	まとめ

評価

レポート ( 50% )、試験 ( 50% ) で総合評価。再試験は行わない。

授業外学習

【事前予習】個々に選択した国あるいは指導者についてのニュースを集める。

【事後学修】授業で説明された国際政治の背景に重ねて、選択した国・指導者の動きについて考える。

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】原彬久 『国際関係学講義（第4版）』有斐閣 2011年

【推薦書】渡邊啓貴編 『新版ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ 2008年

【参考図書】猪口孝 編 『国際関係リーディングズ』東洋書林 2004年

東大作 『平和構築 - アフガン、東ティモールの現場から』 岩波新書 2009年

科目名	映像文化論		
担当教員名	江藤 茂博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 映像文化の成立と展開に、研究・批評的な観点の置き所を説明しながら、現代文化への理解を講義と映像資料とで手に入れてもらう科目である。

科目の概要 三部構成で、最初に映像文化史をジャンル別に資料を提示しながら講義する。次に、日本のアニメーション史の資料と話題を中心にした映像文化史を講義する。最後に、筒井康隆の小説「時をかける少女」の映像化作品を取り上げることで、研究・批評の方法を案内する。

学修目標 ( =到達目標 ) 映像表現の物語の歴史に関する知識と研究・批評の方法を身につけてもらう。

内容	
1	映像表現の歴史
2	写真表現の文化史
3	漫画とアニメーション
4	映画と文学
5	テレビ文化とゲーム文化
6	アニメの映像文化1 出発期の日本アニメーション史
7	アニメの映像文化2 東映アニメーションの時代
8	アニメの映像文化3 テレビアニメーションの登場
9	アニメの映像文化4 アニメブーム第一期と第二期
10	アニメの映像文化5 ジブリのアニメ映画
11	アニメの映像文化6 漫画・ゲーム・ライトノベルとアニメ
12	映像と文芸1 時をかける少女とテレビドラマ
13	映像と文芸2 時をかける少女と映画
14	映像と文芸3 時をかける少女とアニメ
15	まとめ 映像文化論

#### 評価

授業への関心・意欲 (20パーセント)、授業内での参加度 (20パーセント)、小テスト (20パーセント) や小レポート (40パーセント) を合計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】指示された作品を読む・観ること

【事後学修】指示された作品を読む・観ること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません

【推薦書】授業内で指示します

【参考図書】講義担当者の著作に映像文化関係のものが幾冊あります

科目名	雑誌文化論		
担当教員名	飯田 日出男		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

出版活動の中核をなす書籍出版、雑誌出版の現状と未来を、制作現場の具体的な仕事や実例を通して学ぶことで、業界をより具体的に把握・理解する。

#### 科目の概要

出版界の現状を大づかみすると同時に、とりわけ編集者の仕事について理解を深める。その一助として書籍や雑誌の模擬企画を立案、講評。ゲスト講師（現役編集者）の体験談を聞く機会を提供する。

#### 学修目標 (=到達目標)

出版社などメディアにかかわる就職を希望する学生が業界やその仕事を理解できるようにする。さらに具体例を通して学ぶことでモチベーションのアップをはかる。

内容	
1	ガイダンス ( 出版界の現状 )
2	出版社の仕組み
3	私の書籍論
4	書籍はこうしてつくられる ( 課題「書籍の企画を立ててみよう！」 )
5	書籍編集の現場から ( ゲスト講師との対談 )
6	課題「書籍企画」の講評
7	私の雑誌論
8	雑誌はこうしてつくられる ( 課題「雑誌の企画を立ててみよう！」 )
9	雑誌編集の現場から ( ゲスト講師との対談 )
10	課題「雑誌企画の講評」
11	編集者とはなにか
12	出版に携わる様々な仕事
13	電子書籍の課題と問題点 ( 著作権と著作隣接権 )
14	出版界はこれからどうなる
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み70点、課題提出30点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目である。

科目の概要

インターネット上では様々な経済取引が拡大している。そこで、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げる。

学修目標(=到達目標)

インターネットに関わるビジネスモデルを理解する。

内容	
1	ガイダンス
2	インターネットの歴史としくみ
3	情報通信産業の規制緩和と競争
4	スマートフォン
5	インターネットと広告
6	SNSと無料通話アプリ
7	検索サイトと広告
8	インターネットと政府
9	ビッグデータとビジネス
10	ポイントサービスとマーケティング
11	インターネットのショッピングサイト
12	仮想通貨
13	インターネットとセキュリティ
14	インターネットと法律
15	まとめ

評価

平常点(10%)、毎回の課題(30%)、最終レポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】次週取り上げるテーマのサイト確認。

【事後学修】プリントやサイトで確認。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】特にしていない。

【参考図書】授業中に指示する。



科目名	ブランド戦略		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

当該授業は企業が長期に渡り社会で事業を営む上で必須となる「ブランド」の開発・育成について講義を行う。従って、企業活動を理解する上で必要な知識を得るため、「経営学」「マーケティング」「組織論」等の科目を履修することは大切。

#### 科目の概要

企業の維持・成長は多くの顧客からの支持なくして成立しない。従って、顧客から評価される「ブランド」の確立は重要な要件。そのため当該授業では「ブランド」の開発・育成に必要な全ての概念・考え方・手法について説明する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

「ブランド戦略」を通して企業活動の多くを理解することで、就職活動時の大きな助けとなる。

企業が市場で展開している様々な商品の意義を知ること、日常の消費生活を豊かに出来る。

ブランド開発時に必要なアイデアが生まれる過程を修得することで、社会を見る目を養うことが出来る。

内容	
1	講義の全体像の説明、及び「ブランド」とは何かについて解説。
2	ブランド開発に必要なマーケティングへの理解 マーケティングの理解
3	ブランド開発に必要なマーケティングへの理解 マーケティングと企業活動
4	ブランド開発に必要な「今、日本で「何が」起きているか」を具体的な事例を上げて解説
5	ブランド開発に必要な「今、日本で「何が」起きているか」を具体的な事例を上げて解説
6	今日の日本における「ブランド」開発・育成の必要性について解説
7	今日の日本における「ブランド」開発・育成の必要性について解説
8	「マーケティング」を活用した「ブランド」開発・育成の全体像について解説
9	「ブランド」を確立させるために必要な要素・要件を様々な視点から解説
10	グローバルで代表的なブランドである「ルイ・ヴィトン」の成功について解説
11	「ブランド」確立に必要な「商品開発」の具体的手法・考え方について解説
12	開発した「ブランド」の育成に関する考え方・手法について様々な角度から解説
13	「商品開発」の際に重要な要件となる「リサーチ」との関係について解説
14	「ブランド」確立に必須な創造的な組織のあり方について解説
15	まとめ

#### 評価

授業への参加30%・数回にレポート20%・筆記試験50%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

### 【事前予習】

毎回の講義終了時に、次回の講義内容を説明し、予習の要点を指示する。

### 【事後学修】

毎回配布する資料で、講義内容を復習する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

「目盛りを変えろ日本が見える」著者：崎山 嗣夫（日本経済新聞社刊）

「企業改革への道－消費者視点からの発想－」著者：崎山 嗣夫（日本経済新聞社刊）

### 【推薦書】

講義の都度、教室で紹介

### 【参考図書】

講義の都度、教室で紹介

科目名	広告デザイン		
担当教員名	木村 政司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

企業イメージ、ブランドイメージ、メディア戦略を、益々変容する広告表現とその手法に学ぶことで、これからの人や社会に対してどんな価値を提供でき、影響を与えることができるのかを学ぶ。また、ここでは特にデザインのチカラが発想と思考、ライフコンセプトを他領域の知とセンスよく融合することによって提案できる可能性を掴む。

#### 科目の概要

今までの常識が覆される新しい時代の広告の役割、メディアの種類、コミュニケーションの基本戦略を理解し、広告表現とデザインの具体的な手法を視覚的に体験する。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

毎回配布される画像資料や解説シートを確認しながら講義を進行し、ノートを取り、リテラシーを深める。出題された課題を次の講義までに仕上げ、学習効果を確認していく。

1. 自らを知るためのデザインを体験する。
2. 広告の基礎と役割を理解する。
3. 表現手法としてのコミュニケーションデザインを理解する。
4. 知的、グッドセンス、お洒落をデザインすることで影響を与える。
5. 自分自身を戦略的にデザインする。

## 内容

1	セルフプレゼンテーション 自分の未来をデザインする
2	広告にとってデザインは如何に機能しているのか？ 私の好きな広告デザイン
3	日本の広告デザインから学ぶ 広告を分類する
4	ヨーロッパの広告デザインから学ぶ 広告表現に基準と常識は存在しない！
5	ヨーロッパの広告デザインから学ぶ いい広告、わるい広告、つながる広告
6	ヨーロッパの広告デザインから学ぶ デザインの発想とメディアの役割
7	アメリカの広告デザインから学ぶ ヒットをつくるためのデザイン戦略
8	アメリカの広告デザインから学ぶ 言葉のチカラを掴む
9	ブランディング ブランドそのものの広告力から文化を創造する
10	テレビCMに見る日本とアメリカの違い スーパーボウルの高視聴率
11	日本をデザインする 企画力を鍛える：企画書をプレゼンテーションする
12	キャッチコピーとボディ コピー、写真を撮る
13	デザインが広告の未来をどう変えるのか？
14	クールなジャパンのプレゼンテーション マイ・アドの鑑賞・批評会
15	まとめ

## 評価

各回の課題レポート（50%）広告表現課題提出と質（40%）レポート（10%）により評価し、60点以上を合格とする。また、三分の二以上の出席をすることで評価を受けることができる。

## 授業外学習

【事前予習】出題された課題の調査・資料収集を行ない毎回提出する。

【事後学修】講評からリメイクまたは新しいアイデアの蓄積を行ない、最終まとめ課題に応用する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない（配布するプリントのみ使用）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	雑誌・ミニコミ編集		
担当教員名	大西 正行、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

文章に見出しや写真を組み合わせることにより一覽性の紙面を作り上げることが「文章力」「編集力」を高める。この相互メリットを生かし、2つの力量とともに、取材力ひいては就職力・就業力に繋がるコミュニケーション能力、洞察力も養う。DTP編集の実際も学ぶ。

#### 内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業を中心として首都圏の地域メディアの取り組みを取材し、成果物として「十文字メディアニュース夏季号」(仮称)を受講者全員で作りに上げる。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたまなどが考えられる。広告取材班のほか、広報取材班も必要に応じて設ける。(履修の人数を制限します)

本学の学生が埼玉はもとより、東京、千葉・神奈川等からも通学していることも併せ、埼玉を軸とし地域メディアにこだわりつつ視野を拡げて取材にあたっている。

学生はメディアの第一線で活躍する人たちと緊張感がみなぎる仕事の現場で、文章力向上と取材先とのコミュニケーションスキルアップという就職就業に大い役立つ「取材・執筆(写真撮影も)」の醍醐味と、皆の英知と現場で得た感性を絞り多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げたあとの達成感を味わえるまたとない機会を得ることになる。

もとより、通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの外での取材(交通費支給)も一時的に求められ、スケジュールを守って成果物を出す性格の授業であることを認識したうえで受講をしてほしい。

#### 評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】インタビュー前の下調べ等を行う。

【事後学修】取材を踏まえたテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書:『新聞用字用語集(記者ハンドブック)』(共同通信社):教室に常備

科目名	DTP基礎		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

グラフィックソフトウェアの基礎およびグラフィックデザインでの活用方法の基礎を学びます。

コンピュータによるグラフィックス技術は、印刷・出版業界だけでなくあらゆるデザイン分野で活用されており必要不可欠なものとなっています。2次元でのデジタル画像の加工・編集について学び、グラフィックソフトウェアの基礎を習得します。基礎作品制作、チームで印刷媒体の制作を行い、グラフィックデザインのワークフローの基礎を学習します。

ラスター画像とベクトル画像の差異と特徴について学び、それぞれ目的に合致したソフトウェアとプロファイルを選択でき、目的に合致した作成手法やグラフィックデザイン技術の基礎を習得することを目標とします。

## 内容

毎時間、課題があり新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

基本的に資料に頼らないで授業を進めますので、欠席すると付いていけません。

データを保存するUSBメモリ、アイデア用のスケッチブックを毎時間準備してください。

1	ガイダンス、2次元CGの基礎
2	Photoshop基礎 (ビットマップ画像、ピクセルと解像度、基本操作)
3	Photoshop基礎 (レイヤー、ペイント、移動)
4	Photoshop基礎 (色調補正、調整レイヤー、レタッチツール)
5	Photoshop基礎 (マーキーツール、切り抜き、マスク)
6	画像合成作品の制作(テーマあり)
7	Illustrator基礎 (ベクター画像、プロファイル、アートボード、定規とガイド、基本操作)
8	Illustrator基礎 (図解描画、線描画(オープンパスとクローズパス)、ベジェ曲線)
9	Illustrator基礎 (オブジェクト、パス調整、色調整)
10	Illustrator基礎 (文字ツール、パスファインダ)、基礎作品制作 (ネームカード)
11	Illustrator基礎 (画像配置、クリッピングマスク)基礎作品制作 (ポストカード)
12	グラフィックデザイン基礎 (企画・構図・レイアウト・コピー)
13	グラフィックデザイン基礎 (ペアによる制作、テーマあり)
14	グラフィックデザイン基礎 (制作のつづき)
15	まとめ(作品発表・講評)

## 評価

制作作品・課題(80%)、受講態度(20%)などで総合的に判断し、60点以上を合格とします。

スケッチブック(企画、アイデア等)および作品が未提出の場合は評価しません。

## 授業外学習

【事前予習】配布資料をよく読み、演習用データを確認しておくこと。

【事後学修】配布資料や演習用データを使用して練習課題に取り組むことにより、学習した内容をしっかり身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じてプリントやPDFファイル、演習用データを配布します。

科目名	DTP基礎		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

#### 科目の概要

各個人がコンピュータでアプリケーションを操作しながら、画像編集・加工ソフトであるAdobe「Photoshop」や「Illustrator」の操作方法を具体的に学んでいく。

他の演習系授業とも連携しつつ、Webデザイン、紙のデザイン、アニメーション等、各個人の今後の創作活動に有用な基礎を養っていく。

同週の「コンピュータグラフィックス」とは一部内容を反復させながら進めていく。

#### 学修目標

- ・「Photoshop」や「Illustrator」の基本操作ができる。
- ・「Photoshop」や「Illustrator」の活動場面を理解し、紙媒体やデジタル媒体を対象としたデザインを自分なりに創作できる。

履修者数等の都合により一部内容を変更する場合がある。

内容	
1	オリエンテーション
2	画像編集 (Photoshop) と画像描画 (Illustrator) の基本について
3	画像の編集 加工の基礎
4	画像の編集 合成の基礎
5	画像の編集 色調の基礎
6	--第一回 課題の制作--
7	画像の編集 レイヤーを利用した複合的編集
8	画像の編集 マスク等を利用した応用的編集
9	--第二回 課題の制作--
10	画像の描画 名刺
11	画像の描画 ポスター
12	画像の描画 エディトリアルデザイン
13	--最終課題の制作--
14	--最終課題の制作--
15	まとめ



## 評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価する。

## 授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Photoshop」の操作にトライしておくことが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	DTP応用		
担当教員名	木継 則幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

InDesignを使った実習を通じ、DTP及びエディトリアルデザインの基礎を学ぶ。グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、編集志望者を対象とする。

#### 科目の概要

エディトリアルデザインとは、文字と画像を用いて、世界観、時間軸、メッセージ性、ユーザビリティ等の多様な観点から情報伝達を図る、総合的な視覚表現である。

本科目では、観察、発想、設計、評価のプロセスを通じ、アプリケーションの基本操作法と、デザインの基礎となる考え方を身につける。

#### 学修目標(=到達目標)

エディトリアルデザインの基礎的な理解とスキルを習得。雑誌制作、新聞制作など実践的なエディトリアルデザインの実習過程に進むためのベースとなる。

### 内容

#### 1週

##### オリエンテーション

授業の説明、エディトリアルデザインの概要、インデザインの概要、事例紹介

#### 2-6週

##### 基礎演習1(パターン制作)

制作のワークフロー、インデザインの基本操作、ドキュメント作成、レイアウトの基本、カラー設定、テキストの基本設定、画像配置、プレゼンテーション

#### 7-10週

##### 基礎演習2(フライヤー)

タイポグラフィ、情報設計、ユーザビリティ、レイアウトバランス、プレゼンテーション

#### 11-14週

##### 基礎演習3(書籍、雑誌)

ページの基本操作、各種応用操作、ビジュアル表現、プレゼンテーション・講評

#### 15週

##### まとめ

## 評価

提出作品・課題（50点）、準備作業の内容・プレゼンテーション（20点）、授業中の姿勢（30点）などを総合的に判断 総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】良質なアウトプットのためには、日常における観察と発想が必要。

授業ではアウトプットとディスカッションに専念するため、実習のためのリサーチ、ラフ制作、レポート等の準備作業とそのプレゼンテーションを課す。

【事後学修】実習内容を身につけるための課題を課す。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示

科目名	DTP応用		
担当教員名	木継 則幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

InDesignを使った実習を通じ、DTP及びエディトリアルデザインの基礎を学ぶ。グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、編集志望者を対象とする。

#### 科目の概要

エディトリアルデザインとは、文字と画像を用いて、世界観、時間軸、メッセージ性、ユーザビリティ等の多様な観点から情報伝達を図る、総合的な視覚表現である。

本科目では、観察、発想、設計、評価のプロセスを通じ、アプリケーションの基本操作法と、デザインの基礎となる考え方を身につける。

#### 学修目標(=到達目標)

エディトリアルデザインの基礎的な理解とスキルを習得。雑誌制作、新聞制作など実践的なエディトリアルデザインの実習過程に進むためのベースとなる。

### 内容

#### 1週

##### オリエンテーション

授業の説明、エディトリアルデザインの概要、インデザインの概要、事例紹介

#### 2-6週

##### 基礎演習1(パターン制作)

制作のワークフロー、インデザインの基本操作、ドキュメント作成、レイアウトの基本、カラー設定、テキストの基本設定、画像配置、プレゼンテーション

#### 7-10週

##### 基礎演習2(フライヤー)

タイポグラフィ、情報設計、ユーザビリティ、レイアウトバランス、プレゼンテーション

#### 11-14週

##### 基礎演習3(書籍、雑誌)

ページの基本操作、各種応用操作、ビジュアル表現、プレゼンテーション・講評

#### 15週

##### まとめ

## 評価

提出作品・課題（50点）、準備作業の内容・プレゼンテーション（20点）、授業中の姿勢（30点）などを総合的に判断 総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】良質なアウトプットのためには、日常における観察と発想が必要。

授業ではアウトプットとディスカッションに専念するため、実習のためのリサーチ、ラフ制作、レポート等の準備作業とそのプレゼンテーションを課す。

【事後学修】実習内容を身につけるための課題を課す。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示

科目名	Webデザイン基礎		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

1年次の基礎的な情報処理演習を受けて、情報発信の手段のひとつとしてWebページによる表現力を身に着ける。

#### 科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。HTML言語とスタイルシートを自分で書くことにより、その仕組みを理解する。JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページをめざす。

#### 学修目標(=到達目標)

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. HTMLとスタイルシートを使って、Webページのデザインができる。
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる

#### 内容

1	HTMLの基本のおさらいと授業の進め方について
2	配色に関する基本的な考え方
3	Webページの配色の実習
4	段落の書き方
5	マージンとパディング
6	図と文章の回り込み
7	ナビゲーションの作成
8	1段組レイアウト
9	2段・3段組レイアウト
10	z-indexを使用した自由なレイアウト
11	表(table)の利用
12	ID・Classを使った統一的なデザイン
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

#### 評価

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】ネットワークフォルダに置かれている解説を読み、難解な部分をチェックしておく

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消しておく。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず，学内ネットワーク上に解説と課題を置く

【推薦書】日本工業規格、JIS X 8341-3

【参考図書】教室で紹介する

科目名	Webデザイン応用		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

#### 科目の概要

「Webデザイン基礎」を踏まえ、より実践的なWebデザインを学習する。

HTMLに加えCSSを扱い、Webデザインの最適なプロセスを検討していく。また、ソースコード領域に加え、UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築・運用にまつわる、ディレクション、マネージメント領域にも触れる。アプリケーションソフトは主に、Adobe「Dreamweaver」を中心とし、その他テキストエディターも利用する。他の演習系授業とも連携しつつ、Webデザインに限らず、各個人の今後の創作活動に有用な力を養っていく。

#### 学修目標

- ・Webサイトの基本構造を理解できる。
- ・「Dreamweaver」の基本操作が行える。

内容	
1	オリエンテーション
2	Web概論(フロントエンド・バックエンド)
3	Web構築手順(Dreamweaver)の基本について
4	HTMLとCSS基礎
5	HTMLとCSS基礎
6	--課題制作・ワイヤーフレーム制作--
7	HTMLとCSS基礎
8	HTMLとCSS基礎
9	--課題制作・サイトデザイン制作--
10	HTMLとCSS応用
11	HTMLとCSS応用
12	マルチメディア・アプリケーション連携
13	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
14	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
15	まとめ



## 評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点30%、課題の評価点70%で評価をおこなう。総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前期・前年度以前に「Webデザイン基礎」「コンピュータグラフィックス」履修済であることが望ましい。

【事後学修】前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	映像編集		
担当教員名	北川 仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 情報 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門選択科目であり、映像を実践的に学ぶことに興味がある学生向けである。

#### 科目の概要

カメラ・映像編集ソフトウェア等の操作方法を学びながら、映像撮影・編集の基礎を学習する。

各個人が企画を考え、撮影機材・PCを操作し、実際に作品を制作していきながら、カメラ・Premiere等の操作方を具体的に学んでいく。

今後の各個人での表現活動に生かせるよう、映像メディアにおける「説話的な表現」の実践・解説を積極的に講義に取り入れていく。

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・カメラ・編集ソフトウェア等の基本操作ができる。
- ・映像特有の表現方法を、具体的に理解できる。
- ・一定の内容を持った映像作品の制作ができる。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	班分け・企画立案の基礎
3	撮影実習 カメラ操作
4	撮影実習 フォーカス・照明等
5	撮影実習 録音
6	編集実習 Premiereの基本操作・取り込み・カット編集
7	編集実習 テロップ・エフェクト・カラコレ
8	編集実習 書き出し
9	企画立案・進捗報告
10	課題制作 撮影・編集
11	課題制作 撮影・編集
12	課題制作 撮影・編集
13	仕上げ 整音
14	仕上げ カラコレ・書き出し
15	上映・総評

#### 評価

課題制作60%、授業への参加・課題の取り組み状況等の平常点40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】授業前に、チームごとに企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと。

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとに企画立案・課題制作を深めておくこと。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は都度、プリント等を配布する。

科目名	映像編集		
担当教員名	北川 仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 情報 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門選択科目であり、映像を実践的に学ぶことに興味がある学生向けである。

#### 科目の概要

カメラ・映像編集ソフトウェア等の操作方法を学びながら、映像撮影・編集の基礎を学習する。

各個人が企画を考え、撮影機材・PCを操作し、実際に作品を制作していきながら、カメラ・Premiere等の操作方を具体的に学んでいく。

今後の各個人での表現活動に生かせるよう、映像メディアにおける「説話的な表現」の実践・解説を積極的に講義に取り入れていく。

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

- ・カメラ・編集ソフトウェア等の基本操作ができる。
- ・映像特有の表現方法を、具体的に理解できる。
- ・一定の内容を持った映像作品の制作ができる。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	班分け・企画立案の基礎
3	撮影実習 カメラ操作
4	撮影実習 フォーカス・照明等
5	撮影実習 録音
6	編集実習 Premiereの基本操作・取り込み・カット編集
7	編集実習 テロップ・エフェクト・カラコレ
8	編集実習 書き出し
9	企画立案・進捗報告
10	課題制作 撮影・編集
11	課題制作 撮影・編集
12	課題制作 撮影・編集
13	仕上げ 整音
14	仕上げ カラコレ・書き出し
15	上映・総評

#### 評価

課題制作60%、授業への参加・課題の取り組み状況等の平常点40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

授業時間外も積極的にチームごとで企画立案・課題制作を行えると望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は都度、プリント等を配布する。

科目名	ラジオ番組制作		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

音声のみによるメディアであるラジオ。テレビの全盛期には長期的な凋落傾向にあったが先の震災をきっかけに再評価され、いままた注目されている。ネットラジオの普及により、スマートフォンやPCで無数のチャンネルにアクセスできるようになったことも大きい。この授業ではワークショップ形式でラジオ番組制作を体験することによって、あらためてラジオというメディアの特性や可能性を探っていく。

#### 科目の概要

- . 報道番組、紹介番組、解説番組、キャンペーン番組のなかからひとつを選び、番組を制作する。
- . 音楽番組を制作する。

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

ラジオ番組の特性を理解し、目的に沿った番組作りを考えて的確にメッセージを発信できるようになる。  
また、録音や編集を通じて音声制作ツールのスキルを高める。

## 内容

- 第1回 オリエンテーション ラジオの特性と可能性
- 第2回 番組制作 番組企画書
- 第3回 取材 録音
- 第4回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第5回 制作実習(1) 構成 音声編集
- 第6回 制作実習(2) BGM、SE (効果音) 作成
- 第7回 制作実習(3) BGM、SE (効果音) 作成
- 第8回 ミックスダウン エンコード 試聴会
- 第9回 番組制作 番組企画書
- 第10回 選曲 取り込み
- 第11回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第12回 制作実習(1) 録音
- 第13回 制作実習(2) 構成 音声編集
- 第14回 制作実習(3) BGM、SE (効果音) 作成
- 第15回 まとめ ミックスダウン エンコード 試聴会

授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

## 評価

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。

#### 授業外学習

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます。

【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目で、「コミュニケーション」枠の中の選択必修科目である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学」「ナレーションB (英語)」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修すること。

#### 科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

#### 学修目標 (= 到達目標)

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

#### 内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得 (英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得 (英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得 (形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

#### 評価

期末試験70%、小テスト ( 毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います ) 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。



## 授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばと文化		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

#### 科目の概要

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に

言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考える。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

#### 学修目標 (= 到達目標)

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。

#### 内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語とは何？
- 第3回 日本語っていつからはじまったの？
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

#### 評価

課題を基に総合的に評価します。授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感

想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度課す) 最終課題or試験...5~10ポイント

#### 授業外学習

【事前予習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。事前教材の確認。

【事後学修】\* 毎回授業後48時間以内に まとめ(何を学べたか)&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	異文化理解		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 = 専門選択科目

科目の概要 = 北米 ( アメリカ合衆国、カナダ ) の歴史や社会、文化などについて日本との比較をしながら、総合的に学びます。

学修目標 = 北米 ( アメリカ合衆国、カナダ ) についての理解を深めるとともに、日本についてもこれまでと異なった視座で考えられるようになること。

#### 内容

北米、特にアメリカ合衆国は、現在の日本にとっては最も関わりの深い国と言えます。この演習では、この国の歴史、そこに住む人々、社会、文化、習慣など様々な側面について、日本との関係にも目を向けながら理解を深めたいと思います。

第1週 授業紹介

第2週 アメリカの歴史、カナダの歴史

第3週 人種差別、公民権運動その1

第4週 人種差別、公民権運動その2

第5週 日系アメリカ人、カナダ人の歴史その1

第6週 日系アメリカ人、カナダ人の歴史その2

第7週 銃社会アメリカその1

第8週 銃社会アメリカその2

第9週 アメリカの裁判制度

第10週 アメリカ・カナダの家族

第11週 アメリカ・カナダの教育制度

第12週 ハワイの歴史、自然、文化

第13週 アメリカ・ポピュラー音楽の歴史その1

第14週 アメリカ・ポピュラー音楽の歴史その2

第15週 発表、まとめ

#### 評価

レポート ( 50% )、プレゼンテーション ( 50% ) で、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】次週学ぶ内容に関して、担当教員の指示に従い、教科書の指定箇所を熟読しておくこと。また、発表に関しては資料を整えること。

【事後学修】本時で学んだ内容に関して、担当教員の指示に従い、新聞・雑誌・Webなど教科書以外の資料を利用し理解

を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】池上彰著 『そうだったのかアメリカ』集英社文庫

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

学科選択必修科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 ( 言語、非言語 ) が充分でないからなのか、それとも、考え方 ( 文化 ) が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容	
1	異文化コミュニケーション研究の歴史 ( 1 ) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 ( 2 ) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション ( 1 ) ; 動作
7	非言語コミュニケーション ( 2 ) : 外見
8	言語によるコミュニケーション ( 1 ) : 言語
9	言語によるコミュニケーション ( 2 ) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート ( 50% )、試験 ( 50% ) で総合評価。

授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鍋倉健悦 編著 『異文化間コミュニケーションへの招待』北樹出版、1998年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/I

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年

科目名	サブカルチャー論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

本講義では、既存の社会学や政治学や文化論を批判することによって一九七〇年代以降イギリスで発展してきた「カルチュラル・スタディーズ」の理論と分析の基礎を学びながら、現代文化としてのサブカルチャーについて検討していく。対象とするのは、ヒップホップやR & Bなど (音楽)、ファッション、ライトノベルやウェブ小説など (文学)、お笑いや韓流ドラマなど (テレビ番組)、W杯やオリンピックなど (スポーツ)、携帯電話やSNSなど (インターネット) といったさまざまなサブカルチャー領域であり、これらの具体的な現象を丹念に調査・観察することを通じて、現代社会における文化の機能と役割、私たちの生活において文化が持っている意義などを探っていく。前半は理論について講義と文献輪読をし、後半は、グループに分かれてフィールドワークを行います。

#### 内容

1. サブカルチャー論とはなにか?
2. サブカルチャーを分析するための理論 (1) 世界のサブカルチャー
3. サブカルチャーを分析するための理論 (2) 日本のサブカルチャー
4. サブカルチャーを分析するための理論 (3) スタイルと実践
5. サブカルチャーを分析するための理論 (4) プリコラージュとDIY精神
6. サブカルチャーを分析するための理論 (5) 人種とジェンダー
7. サブカルチャー調査のための計画を立てる (1)
8. サブカルチャー調査のための計画を立てる (2)
9. サブカルチャーの調査と観察 (1)
10. サブカルチャーの調査と観察 (2)
11. サブカルチャーの調査と観察 (3)
12. サブカルチャーの調査と観察 (4)
13. サブカルチャーの調査と観察 (5)
14. 合同研究発表会
15. まとめ

#### 評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】調査のプラント準備
- 【事後学修】集めてきた資料やインタビューの整理

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書



佐藤郁哉・フィールドワーク〔増補版〕・新曜社

その他、必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	音声表現論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格・・・「話す」「聞く」は、「読む」「書く」と並んでコミュニケーションの基本である。ところが、おしゃべりは得意でも、自分の考えや思いを的確に伝えることが苦手だという人が増えている。日本語の話しことばに着目し、理論と実践で音声表現の基礎を学ぶ。日本語を大切にしつつ言葉によって人と関わることの素晴らしさを伝えたい。生き生きしたクラスにするため、学生の皆さんの積極的な参加を希望する。

科目の概要・・・毎回声を出して日本語の「話す」「読む」という音声表現技術を磨く。また、「聞く」行為を中心に、教育・医療・介護の場でのコミュニケーションについて考察する。

学修目標 (=到達目標)・・・どんな社会にいても大切な「パブリック・スピーキング」の能力を高める。また、のびのびと自己表現できるように敬語の基本を身につける。

#### 内容

1	日本語の音声表現について基礎を学ぶ
2	わかりやすく「話す」「伝える」
3	「話す」と「読む」の関係
4	タイトルをつけてスピーチする
5	現代の敬語 間違いやすい敬語
6	現代の敬語 「敬語の指針」で基本を学ぶ
7	現代の敬語 敬語とコミュニケーションについて
8	「子どもことば」について考察する
9	絵本や昔話について
10	医療・福祉の場でのコミュニケーションについて
11	「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント
12	インタビューと報告
13	インタビューのポイント
14	教育の場でのコミュニケーションについて
15	まとめ

#### 評価

課題作成 ( 3 0 % ) 口頭発表や実習 ( 5 0 % ) クラスへの貢献度 ( 2 0 % ) とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業のテーマについて準備や予習をする

【事後学修】ほぼ毎回出される課題に取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】『新版NHKアナウンスセミナー』（発行：NHK出版）

【参考図書】好本恵著『話しことばの花束』（発行：リヨン社）

科目名	音声表現論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格・・・「話す」「聞く」は、「読む」「書く」と並んでコミュニケーションの基本である。ところが、おしゃべりは得意でも、自分の考えや思いを的確に伝えることが苦手だという人が増えている。日本語の話しことばに着目し、理論と実践で音声表現の基礎を学ぶ。日本語を大切にしつつ言葉によって人と関わることの素晴らしさを伝えたい。生き生きとしたクラスにするため、学生の皆さんの積極的な参加を希望する。

科目の概要・・・毎回声を出して日本語の「話す」「読む」という音声表現技術を磨く。また、「聞く」行為を中心に、教育・医療・介護の場でのコミュニケーションについて考察する。

学修目標 (=到達目標)・・・どんな社会にいても大切な「パブリック・スピーキング」の能力を高める。また、のびのびと自己表現できるように敬語の基本を身につける。

内容	
1	日本語の音声表現について基礎を学ぶ
2	わかりやすく「話す」「伝える」
3	「話す」と「読む」の関係
4	タイトルをつけてスピーチする
5	現代の敬語 間違いやすい敬語
6	現代の敬語 「敬語の指針」で基本を学ぶ
7	現代の敬語 敬語とコミュニケーションについて
8	「子どもとことば」について考察する
9	絵本や昔話について
10	医療・福祉の場でのコミュニケーションについて
11	「聞く」「聴く」「訊く」それぞれの違いとポイント
12	インタビューと報告
13	インタビューのポイント
14	教育の場でのコミュニケーションについて
15	まとめ

#### 評価

課題作成(30%) 口頭発表や実習(50%) クラスへの貢献度(20%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業のテーマについて準備や予習をする

【事後学修】ほぼ毎回出される課題に取り組む

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【推薦書】『新版NHKアナウンスセミナー』（発行：NHK出版）

【参考図書】好本恵著『話しことばの花束』（発行：リヨン社）

科目名	ことばと社会		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

#### 科目の概要

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に

言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考える。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。

#### 内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

#### 評価

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。 以下、提出物等の評価は、振り返り・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&

感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回  
以上[授業2回につき1つ程度課す) 最終課題or試験...5~10ポイント

#### 授業外学習

【事前予習】1週間の日本語やコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。事前教材の確認。

【事後学修】\* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「  
良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に説明します。

科目名	情報とデザイン		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	情報とデザイン		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	舞台表現A（日本）		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では、能や狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り上げ、現代の演劇にどう継承されているかを明らかにし、外国の演劇との比較により日本の演劇の独自性についても検証します。

特に注目するのは歌舞伎です。現代のメディアと同様に社会現象を敏感に反映し、小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎の検証は、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた要素の解明の手がかりになります。また神の祭りを起源とするため、信仰と演劇という不可分の問題も検討できると考えます。

#### 科目の概要

能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え歌舞伎の本質を明らかにします。宝塚、ミュージカル、現代の舞台芸術、アニメーションも取り上げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

#### 学修目標（＝到達目標）

- (1)日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容	
1	ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ
2	能・狂言の歴史と魅力
3	能から歌舞伎へ 「石橋」と「連獅子」
4	歌舞伎の舞台構造を知る～絵画資料による検証・現代のコクーン歌舞伎まで～
5	市川團十郎と江戸の信仰
6	歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信
7	歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語
8	歌舞伎と広告 「外郎売」「助六由縁江戸桜」など
9	歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演
10	歌舞伎と海外の演劇（1）京劇（中国）・パンソリ（韓国）等アジアの芸能
11	歌舞伎と海外の演劇（2）シェイクスピアと蜷川幸雄
12	海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」
13	現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台
14	現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」「かぐや姫の物語」と日本文化
15	まとめ 伝統芸能の舞台と現代舞台芸術の比較

## 評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業で取り上げる演劇や具体的な演目について、辞書等で各自調べておくこと。特に歌舞伎の演目については、授業内で詳細にあらすじを述べる時間がとれないこともあるので、必ず事前に予習しておくこと。予習の際に有用な文献については、授業中に指示します。

【事後学修】授業内容の不明な点は、次回の授業で質問するかコメント用紙に質問を記載して下さい。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】開講後に指示。授業時には毎回プリントを配布します。

【参考図書】渡辺保著『江戸演劇史（上下）』講談社、2009年

科目名	舞台表現 B (欧米)		
担当教員名	奈須 麻里子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

この科目は、メディアコミュニケーション学科の選択必修科目である。本科目では、英語圏を中心とした演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがる舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 舞台芸術という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げた演劇 (舞台芸術) の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中での芸術のあり方を多角的に考察する。

#### 内容

1	Introduction
2	戯曲 (William Shakespeare 1)
3	戯曲 (William Shakespeare 2)
4	戯曲 (William Shakespeare 3)
5	戯曲 (アメリカ演劇 1)
6	戯曲 (アメリカ演劇 2)
7	ミュージカル 1
8	ミュージカル 2
9	オペラ 1
10	オペラ 2
11	サーカス 1
12	サーカス 2
13	バレエとモダンダンス 1
14	バレエとモダンダンス 2
15	まとめ

#### 評価

期末テスト (60%)、授業態度 (10%)、提出物 (30%) で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】 指定された作品・作家について調べる

【事後学修】授業の考察をまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	舞台表現 B (欧米)		
担当教員名	奈須 麻里子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科の選択必修科目である。本科目では、英語圏の演劇を扱い、歴史的、文化的背景と照らし合わせながら、個々の作品の社会的位置付けを概観する。

#### 科目の概要

本科目では、英米の演劇史の流れを概観しながら、代表的な作品をいくつか取り上げる。具体的な作品読解を通して作品ひとつひとつの魅力を味わいながら、作品とその舞台となる時代や、社会的、文化的背景について理解を深める。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. 英語圏の演劇についての基礎的な知識を身につける。
2. 授業で扱った主要な作品を歴史的、文化的背景と関連付けて解釈する。
3. できるだけ多くの演劇作品や理論に触れ、社会における演劇の位置付けを多角的に考察する。

#### 内容

- 第1回：イントロダクション ( 授業の目標、進め方、注意事項等を説明 )
- 第2回： エリザベス朝演劇 ( イギリス ) : William Shakespeare
- 第3回： エリザベス朝演劇 ( イギリス ) : William Shakespeare
- 第4回： エリザベス朝演劇 ( イギリス ) : William Shakespeare
- 第5回： エリザベス朝演劇 ( イギリス ) : Ben Jonson
- 第6回： ジェイムス朝演劇 ( イギリス ) : Francis Beaumont
- 第7回： 18世紀の演劇 ( イギリス ) : John Gay
- 第8回： 19世紀の演劇 ( イギリス ) : Oscar Wilde、George Bernard Shaw
- 第9回： 20世紀の演劇 ( イギリス ) : Noel Coward
- 第10回： 20世紀のアメリカ演劇 : Eugene O' Neill
- 第11回： 20世紀のアメリカ演劇 : Tennessee Williams
- 第12回： 20世紀のアメリカ演劇 : Edward Albee
- 第13回： 20世紀後半の演劇 ( イギリス ) : Harold Pinter、Tom Stoppard
- 第14回： ミュージカル
- 第15回： まとめ

\* 予定は変更されることがあります。

#### 評価



期末試験50%（持ち込み可）、各回のレスポンスペーパー25%、平常点25%（授業への参加姿勢、課題など）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】指定の作家について調べる。

【事後学修】授業の考察をまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に適宜プリントを配布する。

【参考図書】授業中に適宜指示する。

科目名	文化と文学A（日本文学）		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

本科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の専門科目で、「文化と文学」という科目の一つです。日本文学を対象に、一般教養として文学を学びます。

##### 科目の概要

日本文学の中で最も国際的にその価値が認められている「源氏物語」を取り上げます。物語の流れに沿って、全54帖の中から重要な場面をピックアップして学んでいきます。映画、漫画、アニメ、演劇など様々なメディアに翻訳されているものを副次的な資料として紹介しますが、学習の基本は紫式部が書いた原文です。

##### 学修目標

1000年前に一人の日本女性によって書かれた文学作品が、現在も様々なメディアによって多くの人々に受け入れられているのはなぜでしょう。原作の世界に即して最後まで物語をたどり、全体の粗筋や構成、表現の特徴等を学びます。そして、作者が最も描きたかったことは何か、各自が学んだ源氏物語の知識を基にその答えを導き出しましょう。

内容	
1	ガイダンス 源氏物語はどんな作品か
2	物語の始まり 光源氏誕生
3	雨夜の品定め
4	中流女性との恋
5	怨霊事件の発端
6	怨霊事件の結末
7	紫の君の発見
8	須磨流離
9	六条院の栄華
10	玉鬘物語
11	女三宮降嫁
12	柏木の悲恋
13	紫の上の死
14	宇治の姉妹
15	物語の結末

#### 評価

平常の受講態度および出席状況（10点）、初回から14回目までの授業で提出するリアクションペーパー（70点）、最終授業で提出するリアクションペーパー（20点）で、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】参考文献で物語の粗筋を把握しておく。

【事後学修】授業配布資料や参考文献で授業で進んだところまでの内容を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】テキストはありません。各授業時間ごとに適宜プリントを用意します。

【参考文献】『源氏物語』の参考文献は多数ありますので、ガイダンスで紹介します。

科目名	文化と文学B（英米文学の流れ）		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

#### 内容

##### 《英文学》

- （１）英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- （２）欽定英訳聖書と英文学
- （３）エリザベス朝演劇とシェイクスピア（人間の発見）
- （４）１８世紀・・・小説の始まり（写実と諷刺の精神）
- （５）ゴシックロマンスとジェーン・オースティン（非日常と日常）
- （６）ローマン派詩人（感情の解放）
- （７）ヴィクトリア朝の小説（ディケンズとブロンテ姉妹）
- （８）イギリス児童文学（ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター）
- （９）世紀末文学（審美主義）
- （１０）２０世紀「意識の流れ」の小説（ジョイスとウルフ）
- （１１）生命の哲学（ロレンスとフォースター）

##### 《米文学》

- （１２）１９世紀のピューリタニズムと小説（ホーソンとメルヴィル）
- （１３）２０世紀初頭の自然主義文学（アメリカの悲劇）
- （１４）２０年代の「失われた世代」（虚無と退廃の戦後文学）
- （１５）３０年代の社会主義文学とその後（現代文明批判）

#### 評価

課題レポート５０点、授業への参加状況５０点の割合で評価をし、６０点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらいます。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来るようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	文化と文学C（英米小説と女性）		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代に新しいタイプの人間像が誕生する経緯を捉えながら、その今日的な意味を検討する。

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる脇役の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな生き様、有りようを、時代背景と照らし合わせながら、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性に焦点をしばって、具体的な場面設定の中で捉える。 その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日に生きる英知をさぐる。

#### 内容

毎週、19,20世紀の英米小説を一作ずつ取り上げ、ストーリーの流れの中で女性の生き方を検討する。象徴的ないしは劇的な場面を映像で印象付けるようにする。

#### 授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： ウィリアム・メイクピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第6回： ナサニエル・ホーソン『緋文字』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『テス』
- 第10回： E・M・フォスター『ハワーズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回： マーガレット・ドラブル『礪白』

#### 評価

課題レポート50点、授業への参加状況50点の割合で評価をし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらう。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	文化と文学D（児童文学）		
担当教員名	奈須 麻里子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、イギリス・アメリカを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要（作家・作品）を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

#### 内容

1	イントロダクション
2	児童文学とファンタジー（概論）
3	ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』
4	イーディス・ネズビット 『砂の妖精』
5	ベアトリクス・ポター 『ピーター・ラビットのおはなし』
6	パメラ・トラヴァース 『風にのってきたメリー・ポピンズ』
7	J.R.R.トールキン 『ホビットの冒険』
8	J.R.R.トールキン 『指輪物語』(1)
9	J.R.R.トールキン 『指輪物語』(2)
10	C.S.ルイス 『ナルニア国物語』
11	ライマン・フランク・ボーム 『オズの魔法使い』
12	ルース・スタイルス・ガネット 『エルマーの冒険』
13	モーリス・センダック 『かいじゅうたちのいるところ』
14	アーシュラ・K・ル＝グウィン 『影との戦い』（ゲド戦記）
15	まとめ

#### 評価

期末テスト（60%）、授業態度（10%）、提出物（30%）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

#### 授業外学習



【事前予習】指定された作品・作家について調べる

【事後学修】授業の考察をまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宥子・牟田おりえ 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年

猪熊葉子・神宮輝夫 『イギリス児童文学の作家たち：ファンタジーとリアリズム』研究社、1999年

科目名	文化と文学D（児童文学）		
担当教員名	奈須 麻里子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

この科目は、人間生活学部メディアコミュニケーション学科の選択科目である。イギリスで書かれた作品を中心に、英語圏の児童文学を歴史的、文化的背景と照らし合わせながら概観する。

#### 科目の概要

イギリスを中心に、英語圏で書かれた児童文学を時系列に扱う。主要な作品を中心に、歴史的、文化的背景を踏まえて大まかに読解し、英語圏における児童文学の発展のプロセスや社会における個々の作品の位置付けについて考察する。

#### 学修目標（=到達目標）

1. 児童文学についての基礎的な知識を身につける。
2. 主要な作品を歴史的、文化的背景と関連付けて解釈する。
3. できるだけ多くの児童文学作品と理論に触れ、個々の作品と英語圏の文化への理解を深める。

## 内容

- 第1回：イントロダクション（授業の目標、進め方、注意事項等を説明）
- 第2回： 児童文学とは何か：英語圏児童文学史の流れと子ども像について
- 第3回：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- 第4回：イーディス・ネズビット『砂の妖精』
- 第5回：ベアトリクス・ポター『ピーター・ラビットのおはなし』
- 第6回：L.M. モンゴメリ『赤毛のアン』
- 第7回：J.M. バリ『ピーターパンとウェンディ』
- 第8回：フランシス・ホジソン・バーネット『秘密の花園』
- 第9回：A.A. ミルン『くまのプーさん』
- 第10回：パメラ・トラヴァース『風にのってきたメアリー・ポピンズ』
- 第11回：J.R.R. トールキン『ホビットの冒険』
- 第12回：メアリー・ノートン『床下の小人たち』
- 第13回：フィリップ・ピアス『トムは真夜中の庭で』
- 第14回：C.S. ルイス『ナルニア国ものがたり』
- 第15回：まとめ

\* 予定は変更されることがあります

## 評価

期末試験50%（持ち込み可）、各回のレスポンスペーパー25%、平常点25%（授業への参加姿勢、課題など）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】指定された作品を読み、作家について調べる。

【事後学修】授業後の考察をまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に適宜プリントを配布する。

【参考図書】授業内で指示する。

科目名	身体・スポーツと文化		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

ねらい

メディアコミュニケーション学科の選択科目である。

科目の性格：「身体」「スポーツ」「文化」をキーワードとして、毎回提示されるそれぞれの事象毎に、現状はもちろん、これまでの歴史や背景について学ぶとともに、これからの地域、日本、世界における様々な「身体・スポーツと文化」についての予測もまじえながら、私たちを取り巻く身近な「文化」について考えていく。

学修目標：科目領域の中で、問題意識を持ち、自ら考えながら身体やスポーツの文化について理解し、確かな力を身につけていくことをねらいとする。

## 内容

取り上げる内容としては、「健康」「ダンス」「ラジオ体操」「高校野球」「オリンピック」「ワールドカップ」「駅伝とマラソン」...など、様々なトピックを取り上げ、「女性」との関係、「メディア」との関係なども交えながら、広い視野を獲得していく。知識を得るとともに、傾聴力、発信力なども自然に身に付くよう、前向きな取り組み方を期待する。

1	オリエンテーション
2	「体育」と「スポーツ」の違い (身体+スポーツ)
3	「養生」から「健康」へ (身体+文化) 1
4	「養生」から「健康」へ (身体+文化) 2
5	「身体」と「文化」 (身体+文化)
6	「ダンス」と「身体文化」 (身体+文化)
7	「体操」と「身体文化」 (身体+文化)
8	「身体」と「メディア」の関係 (身体+文化)
9	「女性」と「スポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 1
10	「女性」と「スポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 2
11	「イベントスポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 1
12	「イベントスポーツ」と「文化」 (スポーツ+文化) 2
13	「スポーツ」と「メディア」の関係 (スポーツ+文化)
14	「身体」「スポーツ」「文化」のつながり
15	まとめ

## 評価

1対多の講義形式だけでなく、数回のグループワークを通じて、問題を発見し、明確に提示しながら、理解していく形式をとるため、特に遅刻や欠席については、明確に対応する。従って、平常点および授業参加の姿勢 (40%)、毎回のリアクションペーパー (25%) や提出物状況 (15%) プレゼンテーション (20%) 等を総合的に判断し、6割以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	大西 正行、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

文章に見出しや写真を組み合わせることにより一覽性の紙面を作り上げることが「文章力」「編集力」を高める。この相互メリットを生かし、2つの力量とともに、取材力ひいては就職力・就業力に繋がるコミュニケーション能力、洞察力も養う。DTP編集の実際も学ぶ。

#### 内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業を中心として首都圏の地域メディアの取り組みを取材し、成果物として「十文字メディアニュース夏季号」（仮称）を受講者全員で作る。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたまなどが考えられる。広告取材班のほか、広報取材班も必要に応じて設ける。（履修の人数を制限します）

本学の学生が埼玉はもとより、東京、千葉・神奈川等からも通学していることも併せ、埼玉を軸とし地域メディアにこだわりつつ視野を拡げて取材にあたっている。

学生はメディアの第一線で活躍する人たちと緊張感がみなぎる仕事の現場で、文章力向上と取材先とのコミュニケーションスキルアップという就職就業に大い役立つ「取材・執筆（写真撮影も）」の醍醐味と、皆の英知と現場で得た感性を絞り多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げたあとの達成感を味わえるまたとない機会を得ることになる。

もとより、通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの外での取材（交通費支給）も一時的に求められ、スケジュールを守って成果物を出す性格の授業であることを認識したうえで受講をしてほしい。

#### 評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

#### 授業外学習

【事前予習】インタビュー前の下調べ等を行う。

【事後学修】取材を踏まえたテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社）：教室に常備

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目ではエッセイや詩、小説など多様な文章形態の基礎を学び、文章表現に必要な知識と技術を養うことを目的とします。さらに国内外の文芸作品の読解を通じて、様々な価値観と世界観を理解し、視野と思考を広げることを目的とします。

創作を構造的に理解する一環として、物語について学びます。物語の成立に必要な要素を知ること、小説読解への思考を深めることを目指します。

これらを踏まえて、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。さらに自分の選んだ文章形態で創作し、冊子としてまとめることを発展的目標とします。

科目の概要

創作することを念頭に様々なタイプの文章を読み、対象、内容、構成の違いを学びます。エッセイでは表記の基礎、テーマと構成（3, 4, 5）、詩では言葉の表現力（6）、小説では物語をベースに個々の作品読解を通じて構成、テーマ、描写（7, 8, 9, 10, 11）への理解を深めます。

学修目標（=到達目標）

多様な文章形態の構造を理解し、言葉による表現の特性を学びます。

物語の文法を理解し、創作に必要な構造的理解を深めます。

講義のアウトプットとして、創作作品を冊子にすることを目指します。

内容

1	ガイダンス	言葉による表現について
2	観察と写生	文章を書く
3	エッセイ	表記の基礎
4	エッセイ	テーマと構成
5	エッセイ	文体とエピソード
6	詩	イメージを言葉にする
7	小説	創作について
8	小説	構成を理解する
9	小説	テーマと材料
10	小説	関係性の描写と情景描写
11	小説	内面の描写
12	書評	客観性について
13	創作の構想	
14	演習	
15	まとめ	

## 評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業および配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）についてにアプローチをしてください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジюмеおよび資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。



科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 公民 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。1年次の社会心理学概論で学習した対人魅力領域の話を発展させ、その観点から人間関係について考える。よって社会心理学概論の知識が基礎となり、またコミュニケーションの心理学、対人社会心理学とも密接な関連を持つ。

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。この対人魅力は対人関係進展のために欠かせない要素である。本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的な実証研究について、その方法、実験結果などを詳しく解説し、その知見に基づき人間関係の形成、進展について解説をする。

対人関係領域の知識を身につけると共に、多彩な研究例から研究の考え方ややり方などの方法論についても理解を深め、受講生自身の問題意識の明確化に活かして欲しい。また受講を通して、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけにもなるとよい。

内容	
1	ガイダンス
2	対人魅力とは何か
3	好意をいかにして測るか
4	好まれる性格
5	外見の美しさの効果
6	美しさの判断
7	自分と似ていることの効果
8	環境条件と魅力
9	相手から好かれることの効果
10	個人の内的状況
11	自己開示と好意
12	対人魅力と対人関係
13	対人関係の親密化
14	対人関係の進展・崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題 ( 簡単な実験実施によるデータ収集 ) 20点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に達しない場合再試験を行う。

## 授業外学習

【事前予習】次の授業のキーワードについて自分で調べて予習してくる

【事後学修】学習内容についてノートを整理し復習する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

人間発達心理学科の選択専門科目である。社会心理学の中の集団に関する研究領域を取り上げる。よって社会心理学概論の知識を基礎とする。また他の社会心理学領域の科目とも関連があり、特に産業・組織心理学との関連は密接である。

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。

集団研究の方法、知識を身につけると共に、集団における人間の心理について理解を深め、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

#### 内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

#### 評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

#### 授業外学習

- 【事前予習】次に取り上げる内容について書籍、検索などを使って自分で調べてくる
- 【事後学修】学習内容についてノートを整理し、復習する

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	創作表現		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目ではエッセイや詩、小説など文芸作品に触れることで文章の基礎を学びます。文章形態に応じて、構成、内容の違いを学び、表現する際に最も適した言葉の表現形式について考えます。

さらに文学作品の読解を通じて、視野と思考を広げることを発展的目標とします。国内外の文学作品に触れることで、多様な価値観と世界観を学びます。

文学作品読解の一環として、作品の内容や構成に関する意見を交換しあうグループワークを行います。適宜、文章を書く課題を通じて、基礎的な項目をふまえた言葉によるコミュニケーション能力の向上を目的とします。

#### 科目の概要

様々なタイプの文章を読み、対象、内容、構成の違いを学びます。エッセイでは表記の基礎、テーマの選択、エピソードの構成 ( 3 , 4 , 5 , 6 )、詩では言葉の表現力 ( 7 , 8 )、小説では創作の構成 ( 9 , 10 , 11 , 12 ) を学びます。グループワークを通じて様々なアプローチについて学びます。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

文芸作品に親しみ、様々な価値観や世界観を学びます。

文章の基礎的な知識を踏まえて、課題を通じて「表現する力」を養います。

他者との意見交換によって、異なる考え方を共有し、視野を広げることを目的とします。

## 内容

1	ガイダンス	言葉の表現形態について
2	自己紹介文	文章を書いている
3	エッセイ	文章表現の基礎
4	エッセイ	テーマと構成
5	エッセイ	材料の組み立て方
6	エッセイ	文体とエピソード
7	詩	イメージを言葉にする
8	詩	情景描写と表現力
9	小説	創作について
10	小説	出来事を描く
11	小説	関係を描く
12	小説	心情を描く
13	書評	読書体験の役割
14	演習	

## 評価

各回の授業取り組みと課題提出などで60点、演習で40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

## 授業外学習

【事前予習】授業で取り上げる作品または関連する事項（作家や同じ文章形態の作品など）に当たってください。

【事後学修】授業内および配布された資料を基に、興味関心を持った点（作品や作家、同時代の事象など）についてアプローチをしてください。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特定せず、授業内でレジユメ及び資料を配布します。

【推薦書】授業内で適宜紹介していきます。

【参考図書】授業内で適宜紹介していきます。

科目名	コンピュータグラフィックス		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

#### 科目の概要

各個人がコンピュータでアプリケーションを操作しながら、画像加工・編集の基礎を学習する。

主に次のポイントを消化する。(1)トリミングやレタッチ等の加工 (2)背景やテキスト配置等、レイヤーを利用した編集 (3)透過処理などを含めた書き出し処理 (4)MS Wordへの張りつけ等の外部連携。アプリケーションソフトは主に、Adobe「Photoshop」「Illustrator」を中心として、その他MS Word等も利用する。他の演習系授業とも連携しつつ、各々の今後の創作活動に発展するべく有用な基礎を養っていく。同週の「DTP基礎」とは一部内容を反復させながら進めていく。

#### 学修目標

- ・「Photoshop」や「Illustrator」の基本操作ができる。
- ・「Photoshop」や「Illustrator」の活動場面を理解し、自分で作品を創作できる。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	画像編集 (Photoshop) と画像描画 (Illustrator) の基本について
3	画像の編集 加工の基礎
4	画像の編集 合成の基礎
5	画像の編集 色調の基礎
6	--第一回 課題の制作--
7	画像の編集 レイヤーを利用した複合的編集
8	画像の編集 マスク等を利用した応用的編集
9	--第二回 課題の制作--
10	画像の描画 描画の基礎
11	画像の描画 曲線描画の基礎
12	画像の描画 立体描画の基礎
13	--最終課題の制作--
14	--最終課題の制作--
15	まとめ

#### 評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点30%、課題の評価点70%で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Photoshop」の操作にトライしておくことが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習  
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。  
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

#### 内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

#### 評価



提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習  
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。  
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

#### 内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

#### 評価

提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要...1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標（＝到達目標）...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習  
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。  
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

#### 内容

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

#### 評価

提出作品の評価40% 授業への参加度60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	アニメーション制作		
担当教員名	仁藤 潤		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、短編アニメーション制作に関心のある学生向けの内容である。

#### 科目の概要

「プロット 絵コンテ 動画制作 ポスプロ ( 編集、サウンドデザイン ) 上映」という映像制作のプロセスを学んでいく。

他の演習系授業とも連携しつつ、デジタル撮影、映像編集、サウンドデザインのスキルを養う。

#### 学修目標 ( =到達目標 )

- ・短編アニメーション制作を1人で行えるようになる。
- ・デジタル撮影を行えるようになる。
- ・映像編集、サウンドデザインを行えるようになる。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	アニメーション基礎 1 プロットについて
3	アニメーション基礎 2 コンテについて
4	短編作品 デジタル撮影基礎
5	短編作品 映像編集基礎
6	短編作品 サウンドデザイン基礎
7	短編作品 発表会
8	最終課題 プロット作成
9	最終課題 コンテ作成
10	最終課題 制作 1
11	最終課題 制作 2
12	最終課題 中間発表会
13	最終課題 制作 3
14	最終課題 制作 4
15	最終課題 発表会 まとめ

#### 評価

授業・課題の取り組み状況などの平常点40%、作品の評価点60%で評価をおこなう。総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】デジタル一眼レフカメラの操作に慣れておくことが望ましい。

Adobe Premiere Pro等の映像編集ソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

サウンド編集ソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

【事後学修】課題（プロット・コンテ作成）、作品制作をコツコツと計画的に進める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】オリエンテーション時に指示する。

【参考図書】アニメーションの本 動く絵を描く基礎知識と作画の実際

科目名	ナレーションA（日本語）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格・・・「朗読」は声で作品の内容を聞き手に伝える表現行為である。ナレーションや朗読の実践講座の中で、日本の文学や文芸を鑑賞する力を養う。

科目の概要・・・文章は声に出して読むことによって、その内容をより深く理解できる。さらに、作者の呼吸や作品の奥深さに気づくこともある。日本語の音声表現の基礎を学びながら、様々な作品を読み、画面に合わせてのナレーションも体験する。授業は演習形式で行われ、下読みなどの予習も必要となるので、意欲のある学生の参加を希望する。

学修目標・・・作品を深く理解し、声で伝える能力を身につける。さらに、日本語への関心を高め、ことばの感性を磨く。

#### 内容

1	「朗読」の基礎と魅力
2	伝わる読みのポイント
3	随筆を読む
4	小説を朗読する
5	小説を朗読する
6	詩の朗読
7	詩の朗読
8	間を生かして短歌を読む
9	俳句に親しむ
10	調べを大切に古典作品を読む
11	古典作品を味わう
12	絵本の読み聞かせ
13	昔話の魅力
14	朗読発表
15	まとめ

#### 評価

日頃の授業への参加意欲・下調べや下読みが十分か（50％）発表の成績（50％）を総合して評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】その日の教材を熟読し、声に出して下読みする。



【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。プリントを事前に配布する。

【参考図書】半谷進彦・佐々木端著『基礎から学ぶアナウンス』（NHK出版）  
河合隼雄・阪田寛夫・谷川俊太郎・池田直樹『声の力』（岩波書店）

科目名	ナレーションB (英語)		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

メディアコミュニケーション学科の専門科目のコミュニケーション選択科目。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。なお、ランゲージスキル選択科目の「英語音声学」では、この科目よりも時間の短い個々の音 ( 母音・子音・半母音 ) を詳しくみます。

英語の自然なリズム・イントネーションは、子供か勘のいい人しか身につかないのでしょうか？ この科目では、配置を音声学的に非常によく練った音声 ( 資格試験のリスニング問題程度の速さです ) を大量に観察することで、法則性を発見しながら真の勘を養います。十分に聴いてから、沢山発音して、「発音できればきき取れる」をモットーにしましょう。

従来のリスニング教材には、説明のための実例音声は少なく「あとは空欄のきき取りがついているだけ」というものが多いのですが、この教科書の特徴は、リスニング (= じっときいて観察) の時間が多い点にあります。文字情報なしの音声の意味を理解するという行為は、空欄補充よりも、むしろ英語字幕と音声情報とを同時に得ることに近いと思います。この教科書にも空欄きき取り問題はありますが、完成した音声をその後も聴いて繰り返す練習が大切です。文字的情報が頭の中に自然に流れる状態を目指して、流暢な発音と聴解能力の向上を狙います。

#### 内容

教科書の出版社によると、TOEICでいえば400~500点の人向けとあるのですが、「勉強する価値があるレベルの単語が時々出てくるだけ。空欄きき取りよりも、その後のリピートが大切」と考えてください。

母音は1回の授業で2 units (8頁) しますが、それ以外は毎回1 unitの練習をします。

1	Unit 1 英語のアクセント ( 単語・句 )
2	Unit 2 英語のリズム ( 内容語と機能語 )
3	Units 3&4 紛らわしい母音
4	Unit 5 紛らわしい子音 (1)
5	Unit 6 紛らわしい子音 (2)
6	Unit 7 紛らわしい子音 (3) と半母音
7	Unit 8 つながって聞こえる音 ( 連結 )
8	Unit 9 変化して聞こえる音 ( 同化 )
9	Unit 10 聞こえなくなる音 (1) ( 単語間の脱落 )
10	Unit 11 聞こえなくなる音 (2) ( 単語内の脱落・短縮形 )
11	Unit 12 英語のイントネーション (1)
12	Unit 13 英語のイントネーション (2)
13	Unit 14 World Englishes
14	Unit 15 数量表現
15	まとめ

#### 評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% （小テスト（適宜）、予習、実技録音課題提出）

#### 授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、ダウンロード音声を聴いて下さい。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで音声を何度もきいてまねてください。人によりますが毎週30分は必要と思います。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 杉森幹彦・大塚朝美・杉森直樹・Paul Evans共著, \_English Sounds, English Minds: Introduction to the English Sound System\_ （『英語音声の基礎と聴解トレーニング』）, 金星堂.

#### 【推薦書】

Judy B. Gilbert, \_Clear Speech Student's Book with Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in American English\_ [Student Edition]3版 (2004), Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

#### 科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

#### 学修目標 (=到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字(ア～サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字(タ～ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字(マ～ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

#### 評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

#### 科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

#### 学修目標 (=到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容	
1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字(ア～サ行)
5	名前に関する表現
6	指文字(タ～ハ行)
7	趣味に関する表現
8	指文字(マ～ワ行)
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

#### 評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと

【事後学修】 授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】 ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス ( 地域の人々が健康のために行っているダンス ) を広め、指導にあたるインストラクター ( ダンスムーブメント ( ダンス的運動 ) インストラクターライセンスの受験資格 ) を目指す人のための授業内容をおりこむ。

#### 科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

#### 学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

## 内容

### 1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

#### 毎回

導入 ( 1: 本日の話題 2: グルーピング 3: グループワーク )

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション ( 様々なステップ )

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

### 2) 2 週目 ~ 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

### 3) 6 ~ 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

### 4) 10 ~ 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら 動きを大きく、みている人に伝えられるように

### 5) 14 ~ 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

## 評価

平常点 ( 授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める ) 80%、作品の発表および鑑賞20%等から、



総合的に評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス ( 地域の人々が健康のために行っているダンス ) を広め、指導にあたるインストラクター ( ダンスムーブメント ( ダンス的運動 ) インストラクターライセンスの受験資格 ) を目指す人のための授業内容をおりこむ。

#### 科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

#### 学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

## 内容

### 1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

#### 毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション ( 様々なステップ ) ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

### 2) 2? 3 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

### 3) 4? 6 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

### 4) 7? 9 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

### 5) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

### 6) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

## 評価

評価 平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価し、60点以上を合格とする。

忘れものは減点とする。

#### 授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

メディアコミュニケーション学科の専門科目で、「ランゲージスキル」枠の選択科目である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学」「ナレーションB (英語)」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

#### 科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

#### 学修目標 (= 到達目標)

(i) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

#### 内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則 (偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則 (少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則 (規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

## 評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

メディアコミュニケーション学科の専門科目のランゲージスキル選択科目。なお、コミュニケーション選択科目の「ナレーションB(英語)」では、この科目よりも時間の長い発音 (音連続・リズム・イントネーション) に注目して応用練習をします。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方のほか、英語の教職課程を履修している学生にも履修をお勧めします。

母語の個々の音 (母音・子音・半母音) の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語の発音を日本語と比較することにより個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

#### 内容

この教科書の30のユニットは6つの章に分かれていますが、第2, 3章の子音 (しいん) と母音 (ばいん) をていねいに練習していきます。音節・単語・文章の部分も重要ですが、要点を押さえて速く進みます。

1	1. 音声とつづり -- 2. 音声を生成する -- 3. 子音と母音
2	4. ゴールを決める -- 5. 閉鎖音と鼻音
3	6. 摩擦音
4	7. 破擦音と接近音 -- 8. 子音のまとめ -- 9. 音声学の効用
5	10. 母音
6	11. 前舌母音と後舌母音
7	12. 二重母音と中舌母音
8	13. 音声記号
9	14. 音節 -- 15. 子音連結
10	16. 音節と言葉遊び -- 17. 英語の音のパターン -- 18. リスニング練習
11	19. 単語の強勢 -- 20. 弱形 -- 21. 音素と異音
12	22. 音韻規則 -- 23. 発音練習の諸方法 -- 24. 英語のリズム
13	25. 文の強勢 -- 26. 連結音 -- 27. 同化
14	28. イントネーション (抑揚) -- 29. 音調のパターン -- 30. 自己意識と発音
15	【まとめ】

#### 評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

#### 授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書の対訳を参考に説明英文を読み、付属音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで付属音声を何度もきいてまねてください。人によりですが毎週30分は必要と思います。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】米坂スザンヌ/田中洋也 著 『Discovering English Sounds -- Phonetics Made Easy (発音指導と音声学の融合)』 センテージ ラーニング.

【推薦書】竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著 『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	ベッツィー テラダ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

The aim of this elementary-level English course is to help students gain confidence in their basic English communication skills. The focus will be on developing vocabulary and expression needed to talk about familiar topics.

#### 科目の概要

Two class periods will focus on a topic from the textbook which relates to students' lives, such as family, school life, and favorite things. Students will actively engage in a variety of speaking and short writing tasks.

THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH ONLY.

#### 学修目標 ( =到達目標 )

Upon completion of this course, students should be able to express themselves more confidently in basic English.

内容	
1	Course overview, introductions, Unit 1 (Classroom English, Part 1)
2	Unit 1 (Classroom English, Part 2)
3	Unit 1 Vocabulary Quiz, Unit 2 (School Life, Part 1)
4	Unit 2 (School Life, Part 2)
5	Unit 2 Vocabulary Quiz, Unit 3 (Family, Part 1)
6	Unit 3 (Family, Part 2)
7	Unit 3 Vocabulary Quiz, Unit 4 (Neighborhood & Town, Part 1)
8	Unit 4 (Neighborhood & Town, Part 2)
9	Unit 4 Vocabulary Quiz, Unit 5 (Friends, Part 1)
10	Unit 5 (Friends, Part 2)
11	Unit 5 Vocabulary Quiz, Unit 10 (Memories, Part 1)
12	Unit 10 (Memories, Part 2)
13	Unit 10 Vocabulary Quiz, "Show and Tell" mini-presentations
14	Speaking Test (Units 2, 3, 4, 5, 10)
15	Wrap-up



## 評価

Students will be evaluated on participation (25%), homework (25%), vocabulary quizzes (20%), final speaking test (30%).

## 授業外学習

【事前予習】 Students will be assigned some light homework each week to strengthen vocabulary and expression.

【事後学修】 Students will be expected to review material covered in class each week and study for quizzes and tests.

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Within Your Reach by Cliffe, Svendson, Terada Nan'undo Publishing Co.

【推薦書】 B5 notebook

【参考図書】 paper or electronic English-Japanese, Japanese-English dictionary

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

Elective course.

#### 科目の概要

Students discuss familiar topics, the classroom, school, family, places and friends using simple vocabulary and grammar. They also develop their listening with natural listening materials, such as songs and stories.

#### 学修目標 (= 到達目標)

The goal is to activate the English language that the students already know by enabling them to talk about their own worlds. Students will gain in confidence because the topics are familiar and well-known to them.

#### 内容

1	Unit 1. Introduction. Learning names and items in the classroom.
2	Unit 1. Greetings and classroom management vocabulary. Listening with a song.
3	Unit 1. Classroom phrases and questions.
4	Unit 2. Learning timetables and time.
5	Unit 2. Learning to express likes and dislikes.
6	Unit 2. Using positive and negative adjectives. Listening with a song.
7	Unit 3. Learning about family trees and relations.
8	Unit 3. Forming yes/no questions. Listening with a story.
9	Unit 3. Asking and telling about each other's family.
10	Unit 4. Describing places using their is / are
11	Unit 4. Describing places using adjectives. Listening with song.
12	Unit 4. Explaining locations using maps.
13	Unit 5. Describing personalities.
14	Unit 5. Discussing activities together.
15	まとめ Evaluation activities.

#### 評価

Small review tests on each unit 30%, listening activities 30% final test 40%。

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 Outside lesson listening recommended.

【事後学修】 Review using the vocabulary lists provided in the text book.

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Within Your Reach. Cliffe, Svendon, Terada. Nan'un Do.

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

Elective course.

#### 科目の概要

Students discuss familiar topics, the classroom, school, family, places and friends using simple vocabulary and grammar. They also develop their listening with natural listening materials, such as songs and stories.

#### 学修目標 (=到達目標)

The goal is to activate the English language that the students already know by enabling them to talk about their own worlds. Students will gain in confidence because the topics are familiar and well-known to them.

#### 内容

1	Unit 1. Introduction. Learning names and items in the classroom.
2	Unit 1. Greetings and classroom management vocabulary. Listening with a song.
3	Unit 1. Classroom phrases and questions.
4	Unit 2. Learning timetables and time.
5	Unit 2. Learning to express likes and dislikes.
6	Unit 2. Using positive and negative adjectives. Listening with a song.
7	Unit 3. Learning about family trees and relations.
8	Unit 3. Forming yes/no questions. Listening with a story.
9	Unit 3. Asking and telling about each other's family.
10	Unit 4. Describing places using their is / are
11	Unit 4. Describing places using adjectives. Listening with song.
12	Unit 4. Explaining locations using maps.
13	Unit 5. Describing personalities.
14	Unit 5. Discussing activities together.
15	まとめ Evaluation activities.

#### 評価

総合評価60点以上を合格とする。

Small review tests on each unit 30%, listening activities 30% final test 40%。

#### 授業外学習

【事前予習】Outside lesson listening recommended.

【事後学修】Review using the vocabulary lists provided in the text book.

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Within Your Reach. Cliffe, Svendon, Terada. Nan'un Do.

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

The focus will be on gaining confidence at speaking out in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

## 内容

Week 1 Summer Vacation

Week 2 Unit 1 Food

Week 3 Review

Week 4 Unit 2 Festivals

Week 5 Review

Week 6 Unit 3 Cities

Week 7 Review

Week 8 Unit 4 Jobs

Week 9 Review

Week 10 Unit 5 Music

Week 11 Review

Week 12 Internet Articles

Week 13 Summarizing articles

Week 14 Presentations

Week 15 Evaluation

## 評価

総合評価60点以上を合格とする。

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

## 授業外学習

【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet

【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

Inspire 2 by Pamela Hartmann

Cengage Learning

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

The focus will be on gaining confidence at speaking out in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

## 内容

Week 1 Summer Vacation

Week 2 Unit 1 Food

Week 3 Review

Week 4 Unit 2 Festivals

Week 5 Review

Week 6 Unit 3 Cities

Week 7 Review

Week 8 Unit 4 Jobs

Week 9 Review

Week 10 Unit 5 Music

Week 11 Review

Week 12 Internet Articles

Week 13 Summarizing articles

Week 14 Presentations

Week 15 Evaluation

## 評価

総合評価60点以上を合格とする。

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

## 授業外学習

【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet

【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

Inspire 2 by Pamela Hartmann

Cengage Learning

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	グロリアプロフィラト		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 The purpose of this class is to enable students to initiate and sustain a casual conversation on a variety of topics.

科目の概要 Classroom activities will vary according to level of English and creativity.

学修目標 (=到達目標) Students are expected to participate and prepare their work so the lesson can run smoothly.

内容	
1	Introduction. Class explanation
2	Restaurant unit
3	Talking about food.
4	Making your own restaurant.
5	Group work - Presentation.
6	What's the matter? (Health topic)
7	Vocabulary exercises and group work.
8	Presentation of above.
9	How much do you know?
10	Asking/Answering question in passive form.
11	Asking/Answering question in passive form.
12	What would you say if...?
13	Asking/Answering questions / Would...if
14	Tell me about Japan.
15	まとめ Student presentation of above.

#### 評価

総合評価60点以上を合格とする。Attendance/participation 20% Pair/ group conversations 60% , vocabulary tests 20%

#### 授業外学習



【事前予習】 Read dialogues. Check new words.

【事後学修】 Make sentences for homework.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Prints Supplied

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	グロリアプロフィラト		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 The purpose of this class is to enable students to initiate and sustain a casual conversation on a variety of topics.

科目の概要 Classroom activities will vary according to level of English and creativity.

学修目標 (=到達目標) Students are expected to participate and prepare their work so the lesson can run smoothly.

内容	
1	Introduction. Class explanation
2	Restaurant unit
3	Talking about food.
4	Making your own restaurant.
5	Group work - Presentation.
6	What's the matter? (Health topic)
7	Vocabulary exercises and group work.
8	Presentation of above.
9	How much do you know?
10	Asking/Answering question in passive form.
11	Asking/Answering question in passive form.
12	What would you say if...?
13	Asking/Answering questions / Would...if
14	Tell me about Japan.
15	まとめ Student presentation of above.

#### 評価

総合評価60点以上を合格とする。Attendance/participation 20% Pair/ group conversations 60% , vocabulary tests 20%

#### 授業外学習

【事前予習】 Read dialogues. Check new words.

【事後学修】 Make sentences for homework.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Prints Supplied

科目名	日常英会話		
担当教員名	ベッツィー テラダ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

The aim of this course is to help students gain confidence in their basic English communication skills, especially with language they will need when they travel to a foreign country. The focus will be on developing vocabulary and expressions needed to enjoy their trips abroad.

#### 科目の概要

Each class period will focus on a travel situation in the textbook, such as ordering in a restaurant, checking in at the airport, and asking for directions. Students will actively engage in a variety of speaking and short writing tasks, as well as role plays.

THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH ONLY.

#### 学修目標 ( =到達目標 )

Upon completion of this course, students should be able to express themselves more confidently in basic English.

内容	
1	Class Overview, introductions, icebreaker
2	Unit 1 Eating in a restaurant
3	Unit 2 At immigration
4	Unit 3 Money exchange
5	Unit 4 Checking into a hotel
6	Unit 5 Asking for directions
7	Test 1: Units 1-5 Unit15 Shopping
8	Unit 7 Going to the doctor
9	Unit 8 Making plans
10	Unit 9 Ordering in a restaurant
11	Unit 10 Talking about family
12	Test 2: Units 6-10 Unit18 Lost and found
13	Role-play Part 1
14	Role-play Part 2
15	The Survival Game

## 評価

Students will be evaluated on participation (25%), homework (25%), unit tests (20%),  
Final role-plays (30%).

## 授業外学習

【事前予習】 Students will be assigned some light homework each week to strengthen  
vocabulary and expression.

【事後学修】 Students will be expected to review material covered in class each week and  
study for tests.

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Passport English for International Communication, Oxford Univ. Publishing Co.

【推薦書】 B-5 notebook

【参考図書】 paper or electronic English-Japanese, Japanese-English dictionary

科目名	日常英会話		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

Elective.

#### 科目の概要

Students discuss familiar topics such as vacations, favorite things, fashion, memories and stories, work and holidays. They practice listening with natural materials such as songs and stories.

#### 学修目標 (=到達目標)

Students will utilize the English that they already know and will gain in confidence by speaking about familiar and useful topics.

内容	
1	Unit 6. Discussing the summer vacation. Asking and answering questions.
2	Unit 6. Using the past tense to tell stories about the summer. Listening with a song.
3	Unit 7. Practicing listening comprehension with stories.
4	Unit 7. Story making workshop.
5	Unit 7. Reading stories to learn story telling techniques.
6	Unit 8. Comparing favorite things.
7	Unit 8. Using Wh questions. Comparing and contrasting.
8	Unit 9. Talking about clothes and trends.
9	Unit 9. Discussing trends. listening with a song.
10	Unit 10. Discussing schools and childhood. Using the past tense to tell stories.
11	Unit 11. Discussing different types of work and skills.
12	Unit 11. Listening to and making a resume.
13	Unit 12. Holidays: Christmas vocabulary, stories and listening activities.
14	Unit 12. Holidays: New Year vocabulary, game and listening activities.
15	まとめ Evaluation activities.

#### 評価

総合評価60点以上を合格とする。

Small unit tests 30%, listening activities 30%, final test 40%.

#### 授業外学習

【事前予習】Listening outside the classroom recommended.

【事後学修】Review using the vocabulary list provided in the textbook.

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Within Your Reach. Cliffe, Svendsen and Terada. Nan'un Do.

科目名	日常英会話		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

The focus will be on gaining confidence at speaking out in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

## 内容

Week 1 Summer Vacation

Week 2 Unit 7 Family

Week 3 Review

Week 4 Unit 8 Nature

Week 5 Review

Week 6 Unit 9 Happiness

Week 7 Review

Week 8 Unit10 Conservatuib

Week 9 Review

Week 10 Volunteer Abroad

Week 11 Music from Around the World

Week 12 Africa I

Week 13 Africa II

Week 14 Presentations

Week 15 Evaluation

## 評価

総合評価60点以上を合格とする。

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

## 授業外学習

【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet

【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

## 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

Inspire 2 by Pamela Hartmann

Cengage Learning



科目名	日常英会話		
担当教員名	アナ ウォーカー		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

The focus will be on gaining confidence at speaking out in English on a range of topics, using a variety of sentence patterns and discussion strategies.

#### 内容

Week 1 Summer Vacation  
 Week 2 Unit 7 Family  
 Week 3 Review  
 Week 4 Unit 8 Nature  
 Week 5 Review  
 Week 6 Unit 9 Happiness  
 Week 7 Review  
 Week 8 Unit10 Conservatuib  
 Week 9 Review  
 Week 10 Volunteer Abroad  
 Week 11 Music from Around the World  
 Week 12 Africa I  
 Week 13 Africa II  
 Week 14 Presentations  
 Week 15 Evaluation

#### 評価

Grades will be based on course work (20%), homework exercises (15%), participation in class (15%), and a mini-presentation (50%).

#### 授業外学習

- 【事前予習】 Students will be required to research the weeks topic on the internet
- 【事後学修】 Students will review the new vocabulary and sentences patternes.

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

Inspire 2 by Pamela Hartmann  
 Cengage Learning

科目名	日常英会話		
担当教員名	グロリアプロフィラト		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 This course aims at developing students' ability and confidence to communicate in English.

科目の概要 Through speaking, listening and writing students can gain an appreciation of a more natural English.

学修目標 ( =到達目標 ) Practice and review of grammar will help improve their level of English.

内容	
1	Introduction. Class Explanation
2	Getting to Know you
3	You, a friend indeed
4	You, a friend indeed
5	You, out on the town
6	You, Restaurant owner
7	You, world traveler
8	You, world traveler
9	You, job seeker
10	You, job seeker
11	You, shop owner
12	You, inventor
13	You, Helping solve world problems
14	Older people in your life
15	Finishing up (Textbook last unit)

#### 評価

総合評価60点以上を合格とする。Attendance /participation 20% ,Role-play/discussion 60%  
Vocabulary tests 20%

#### 授業外学習

【事前予習】 Read specified pages. Check vocabulary.

【事後学修】 Listen to CD at home. Prepare unit.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Moving on with English Nan'un-do ( Eric Bray )

科目名	メディア英語		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

(科目の性格) 現在では、情報の多くが英語でやりとりされています。この授業では、英字新聞やそのホームページに頻出する企業に焦点を当て、グローバル化した現代社会を読み解くための基本的な知識を英語で学びます。

(科目の概要) テキストを読みます。必要に応じて、実際の英字新聞やホームページを閲覧します。テキストには、日本でも知られている15のアメリカ企業を題材としたエッセイを使用します。グローバル化した現代世界の様々な出来事や問題に対する知識、関心を深めながら読み進めていきます。

授業では、毎週1つの企業について読み、内容についてのリスニングを行います。また、その企業について受講者各自が調査した内容を発表してもらう予定です。

受講者の関心の高いユニットから順次読めるよう調整したいと思います。

(学修目標) 辞書を片手に、やさしい英字新聞が読めるようになること、および簡単なリスニングに慣れることが目標です。

選択科目ですので、以上のような内容に興味があり、自発的に情報を収集し、考える態度が望まれます。

#### 内容

1	ガイダンス
2	Unit 1: The Dodgers
3	Unit 2: Pepsi-Cola
4	IBM
5	Oreo
6	Hyatt
7	Yahoo!
8	The Chicago Bulls
9	Pizza Hut
10	Starbucks
11	Greyhound
12	Newsweek
13	Gap
14	Walmart
15	まとめ

#### 評価

参加態度40%、発表等30%、テスト30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストを読み、わからない点をはっきりさせて授業に臨んでください。1時間程度の予習が必要と考えられます。また、発表担当者はプレゼンの準備をしてください。

【事後学修】テキストを読みなおし、学習した企業についてのニュースなどに注意する。時間は各受講生の理解度によります。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『アメリカンドリームを継ぎし者たち』

トム・グディア、武末義信著、南雲堂、1600円

（授業内で使用する。）

科目名	メディア英語		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、メディアで使われている英語を基礎から学習するクラスです。

#### 科目の概要

ウェブサイトや英字新聞などで実際に使われている実践的な英語の読解力を養成します。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

幅広い分野のニュース ( 例えば文化、社会、経済、科学技術など ) を題材にして、ある程度まとまった長さの時事的内容の文章が読めるようになることを目指します。

特に、(1) 英文記事に慣れること、(2) 辞書を活用して英文を正確に読み取る力を身につけること、(3) 語彙や表現力を豊かにすることを、主な目標とします。

#### 内容

基本的な文法事項や語彙・表現を確認しながら、テキストの音読・和訳または要約を行うと共に、内容把握等の練習問題に取り組みます。

語彙力を高めるため、3～4週ごとに、授業で使用するテキストから単語の小テストを行います。

1	英字新聞の読み方
2	古都にモダンな博物館
3	下町ボブスレープロジェクト
4	コンビニも進化する
5	日本企業が英語で会議
6	ダブルの悲劇
7	大学が魚工場に地域に貢献
8	決死の片道旅行
9	空港で日本の思い出を
10	再出発を支えるワザ
11	水も過ぎれば毒になる
12	アキバの新商売
13	東京の地震には火の備え
14	日本経済SOS
15	まとめ

#### 評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

(1) 期末試験：60%

(2) 平常点：40%（授業への参加度、小テスト、課題提出）

#### 授業外学習

【事前準備】教科書の指定箇所を必ず予習して授業に望んでください。

【事後学修】授業で学習した単語や表現を再確認し覚えてください。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】深山晶子『Social Change - メディア英語で社会を読む』三修社

【推薦書】授業で適宜紹介します。

【参考図書】授業で適宜紹介します。

科目名	ライティング		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

(科目の性格)

英語が国際語となっている現在、社会で活躍するためには英語で自分の意見を表現する力が求められます。

(科目の概要)

英文では論理的な思考が重視されます。そのため、英語で書かれる文章のパターンは論理の流れにしたがうことが多くなります。逆に言うと、英文エッセイのパターンに習熟していれば、論理展開のしっかりした文章を書くことができるわけです。授業では、「意見と理由」「観察と分析」「実験と結果」「賛成と反対」「比較と対比」「分類」「指示」「歴史」「原因と結果」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していきます。

(学修目標)

ひとつのまとまった内容を英語で書く訓練をすることを目的とします。一文一文を文法的に書くことに加えて、英文エッセイにおけるパラグラフの概念を学び、論理的な文章を書くことをめざします。

内容

1	ガイダンス
2	Conclusions/Reasons(Model Essay)
3	Conclusions/Reasons(Original Essay)
4	Analysis(Model Essay)
5	Analysis(Original Essay)
6	Theory/Proof(Model Essay)
7	Theory/Proof(Original Essay)
8	Controversy(Model Essay)
9	Controversy(Original Essay)
10	Comparison/Contrast(Model Essay)
11	Comparison/Contrast(Original Essay)
12	Instructions(Model Essay)
13	Instructions(Original Essay)
14	Chronological Order(Model Essay)
15	まとめ

評価

期末テスト50%、平常点(課題、参加態度)50%とし、総合評価60点以上を合格とする。



## 授業外学習

【事前予習】ライティング・パターンを読み、文章の構成を予習してきてください。(1時間程度)

【事後学修】授業で学んだパターンにしたがって、自分のエッセイの構想を考えておいてください。(1時間程度)

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

### 【教科書】

『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ(改訂版)』(石谷由美子他、南雲堂、1900円+税)

科目名	ライティング		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目の中のランゲージスキル科目である。選択科目であるが、英語教職課程の履修者は必修となる。

#### 科目の概要

短い英文のモデルエッセイを読み、その論理展開のパターンを学びます。そののち、そのパターンに従ってオリジナルエッセイを作成することにより、ひとつのまとまった内容を英語で書く訓練をすることを目的とする。

#### 学修目標(=到達目標)

一文一文を文法的に書くことに加えて、英文エッセイにおけるパラグラフの概念を学び、論理的な文章を書くことをめざす。

#### 内容

英文のモデルエッセイを読み、英語の論理パターンを学ぶ。授業では、「分類」「手順の説明」「言葉の定義」「意見と理由」「観察と分析」「データの説明」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していく。また教室での演習に加えて、各パターンごとに自宅で課題を行うことによって、実践的な英文読解のスキルを身につけていく。

1	ガイダンス・6.Classification モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
2	6. Classification オリジナルエッセイの作成
3	10. Process モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
4	10. Process オリジナルエッセイの作成
5	12. Definition モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
6	12. Definition オリジナルエッセイの作成
7	1. Conclusions/Reasons モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
8	1. Conclusions/Reasons オリジナルエッセイの作成
9	2. Analysis モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
10	2. Analysis オリジナルエッセイの作成
11	4. Controversy モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
12	4. Controversy オリジナルエッセイの作成
13	13. Explanation モデルエッセイの説明とオリジナルエッセイの下書き
14	13. Explanation オリジナルエッセイの作成
15	まとめ

#### 評価

期末テスト40%、平常点(課題、復習テスト、参加態度)60% とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】モデルエッセイを読み、その構成を予習する

【事後学修】モデルエッセイのパターンにしたがって、自分のエッセイを作成する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ（改訂版）』，石谷由美子他，南雲堂，1900円＋税）  
その他適宜プリントを使用する

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ビジネス英語		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この科目は、共通科目のうちの選択科目で、ビジネス英語を基礎から学習するクラスです。

#### 科目の概要

ビジネスの世界で必要とされる英語力を養成することを目標とします。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

様々なビジネスの場面で役立つ会話表現や英文ビジネス文書に関する基礎知識を習得し、実際に活用できるようになることを目指します

#### 内容

実物とTOEICで使用されるビジネスレター、メール、ファックスを利用しながら演習していきます。

1	ビジネス通信 (ファックス)
2	ビジネス通信 (電子メール・電話)
3	ビジネス通信 (手紙)
4	社交関連英語 (ホテルの予約)
5	社交関連英語 (移転通知)
6	社交関連英語 (招待)
7	社交関連英語 (面会)
8	社交関連英語 (会議の通知)
9	社内の英語 (資料の送付 )
10	社内の英語 (購入)
11	社内の英語 (報告)
12	取引関係の英語 (引合い)
13	取引関係の英語 (注文)
14	雇用関係の英語 履歴書・応募の手紙
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み(20%)、平常点(20%)、最終チェック(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】最低30分で課題を解いておく

【事後学修】間違えた箇所をチェックし、次回からクリアできるようにする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Andrew Vaughan, Dorothy Zemach, Get Ready for Business, Book 2, Macmillan

【推薦書】

【参考図書】

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、共通科目の実践英語科目の選択・選択必修科目で、英語での受信力・発信力の基礎となるリスニング力を養成することを目的としている。

#### 科目の概要

全15回の授業では、おもに、現代の日本を海外に紹介する番組 (NHK衛星放送) を扱う。各回で、ニュース英語のリスニングに必要なボキャブラリーや重要構文などを確認する。それらの知識に基づき、視聴覚メディアから英語を総合的に理解するスキルを習得することを目指す。

#### 学修目標

英語力養成のために、予習・復習は不可欠である。テキストには事前に目を通し、積極的な態度で授業に参加してほしい。

1. 授業で扱う英語ニュースを聞き取り、要点を把握することができる。
2. 重要なボキャブラリーを習得する。(毎回単語テストを実施する。)
3. 英語の受信力・発信力養成における国際的な視野の重要性を理解する。

#### 内容

指定の教科書に基づき、以下のスケジュールで授業を行う。

1	イントロダクション
2	Unit1 Box Stars
3	Unit2 Tearing Down Language Barriers
4	Unit3 Punching Back
5	Unit4 Watching Up Sleeping Patents
6	Unit5 Traditional Japanese Cuisine
7	Unit6 The Cost of Convenience
8	Unit7 New Look at Old Clothes
9	Unit8 Operating Rooms on Wheels
10	Unit9 Off the Tourist Trail
11	Unit10 Blindness No Barrier
12	Unit11 Against the Grain
13	Unit12 Healthy Workers Paying Off
14	Unit13 Japanese-style "Halal"
15	まとめ

#### 評価

期末試験（50％）、単語テスト（30％）、平常点[課題提出、授業態度]（20％）により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの予習

【事後学修】授業後の課題

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎達朗・他著 『What 'on Japan 9』金星堂

【参考図書・辞書等】授業で適宜紹介する。

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

このアドバンスト・リスニングは、ニュースや時事解説などで得られる情報を理解するものです。

#### 科目の概要

世界 (主に、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ) 発のニュースを理解します。

#### 学修目標 (=到達目標)

一般に、私たちが聴くニュースは平均180語 / 1分のスピードである。これを60%以上聞き取れることを目標としています。

内容	
1	導入
2	世界の災害はどう伝えられる
3	事故はどう報道される
4	世界の犯罪報道
5	社会に関する報道
6	健康関連ニュース
7	スポーツ報道の実際
8	国際問題、国際関係ニュースの聞き取り方
9	政治関連ニュース
10	経済ニュースの聞き取り方
11	世界の環境問題
12	科学関連ニュース
13	世界の天気予報
14	ニュースの聞き取り復習
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み20%、平常点20%、最終チェック60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの予定箇所の語彙をチェックしておく。



【事後学修】さらに速い速度で聴いてみて、弱点を補強しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】森田勝之著 『ニュース英語のリスニング 3段階スピード』、DHC

【推薦書】

【参考図書】森田勝之著 『ニュース英語のリスニング 基礎編』、DHC

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	奈須 麻里子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科の選択科目で、英語での受信力・発信力の基礎となるリスニング力を養成することを目的としている。

#### 科目の概要

NHKの海外向けニュースを扱ったテキストを使用し、自然な英語を聞き取る力を養う。そのため各回で、ニュース英語のリスニングに必要な語彙や文法事項などの確認を行う。そのうえで、英語を理解する楽しさを味わいながら、日本の文化について考え、発信する力を総合的に身につけることを目指す。

#### 学修目標 (= 到達目標)

1. ニュース英語のリスニング力を向上させ、要点を理解できるようにする。
2. ニュースで扱う時事問題に対する意識を高め、国際的な視野を広げる。
3. ニュース英語の理解に必要な語彙力を伸ばす。

#### 内容

第1回：イントロダクション ( 授業の目標、進め方、注意事項等を説明 )

第2回：Unit 1: Box Stars

第3回：Unit 2: Tearing Down Language Barriers

第4回：Unit 3: Punching Back

第5回：Unit 4: Waking Up Sleeping Patents

第6回：Unit 5: Traditional Japanese Cuisine

第7回：Unit 6: The Cost of Convenience

第8回：Unit 7: New Look at Old Clothes

第9回：Unit 8: Operating Rooms on Wheels

第10回：Unit 9: Off the Tourist Trail

第11回：Unit 10: Blindness No Barrier

第12回：Unit 11: Against the Grain

第13回：Unit 12: Healthy Workers Paying Off

第14回：Unit 13: Japanese-style Halal

第15回：まとめ

\* 予定は変更されることがあります。

#### 評価

定期試験60%、平常点40%（質疑応答、授業中の小テスト、授業への参加姿勢等）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前準備】テキストの予習

【事後学修】テキストの復習と授業後の課題

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】山崎達朗・他著 『What's on Japan 9』金星堂

【参考図書】授業中に、適宜指示する。

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	柿元 資子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

シェイクスピアの名作、「ロミオとジュリエット」を読み、至福の新床から死へと転がり落ちる若い二人の悲恋物語のあらすじを追います。

##### 科目の概要

平易な英語で書かれた「ロミオとジュリエット」を通じて、イギリスを代表する劇作家シェイクスピアの世界に足を踏み入れていきます。

##### 学修目標(=到達目標)

1. 読解力を身につける
2. 語彙力、イデオムの強化をはかる

#### 内容

- 1週目 本科目のテーマ、目的、概要、成績評価基準等を確認する
- 2週目 Chapter 1 Love's Transgression
- 3週目 Chapter 2 My Life Is My Foe's Debt
- 4週目 Chapter 1と2の内容を見直し、語彙、語句の再確認
- 5週目 Chapter 3 Parting Is Such Sweet sorrow
- 6週目 Chapter 4 The Measure Of Thy Joy
- 7週目 Chapter 3と4の内容を見直し、語句、語彙の再確認
- 8週目 中間まとめ
- 9週目 Chapter 5 O, I Am Fortune's Fool
- 10週目 Chapter 6 Take Heed, For Such Die Miserable
- 11週目 Chapter 5と6の内容を見直し、語彙、語句の再確認
- 12週目 Chapter 7 A Cold And Drowsy Humour
- 13週目 Chapter 8 Never Was a Story Of More Woe
- 14週目 Chapter 7と8の内容を見直し、語彙、語句の再確認
- 15週目 まとめ

#### 評価

試験80%、授業貢献度20%

#### 授業外学習

【事前予習】単語を調べそのChapterを読んでくこと

【事後学修】特になし

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Simply Shakespeare (Jim Knudsen / Takao Taguchi 著) 南雲堂

【推薦書】

【参考図書】

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 27年度新カリ (1年生) では、「共通科目」の「外国語」選択科目、旧カリではメディアコミュニケーション学科の「専門科目」内の「ランゲージスキル」選択科目です。

科目の概要 主にインターネット上のウェブサイトから興味深い、または新鮮で話題となっている事柄の英文テキストを選び、トップダウン (概要理解) とボトムアップ (語彙、表現、語法など) の両面から英語の読解力を高めます。

学修目標 (= 到達目標) 英語新聞、雑誌、ウェブサイトなどに書かれている英文テキストを読み、比較的短時間で概要を理解できる英語力を身に付ける。

内容	
1	イントロダクション
2	ウェブサイト上の記事 1
3	ウェブサイト上の記事 2
4	ウェブサイト上の記事 3
5	ウェブサイト上の記事 4
6	ウェブサイト上の記事 5
7	ウェブサイト上の記事 6
8	ウェブサイト上の記事 7
9	ウェブサイト上の記事 8
10	ウェブサイト上の記事 9
11	ウェブサイト上の記事 1 0
12	ウェブサイト上の記事 1 1
13	ウェブサイト上の記事 1 2
14	ウェブサイト上の記事 1 3
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み (30%)、課題 (20%)、期末試験 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】 指定された英文テキストを読み、概略をつかむこと。

【事後学修】 学習した英文テキストの語彙や表現を復習し、定着させること。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教科書は使用しません。プリントを配布します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

TOEIC (Test of English for International Communication

)は、仕事や日常生活におけるコミュニケーションを英語で行うことを想定して開発されたテストです。また、そのスコアはしばしば社会で英語力を客観的に判断するための基準として用いられます。

授業では、スコアアップを目指して学習しながら、コミュニケーションに必要な英語表現を習得し、自然なスピードの聞き取りに慣れることを目的とし、各テーマの関連語彙や文法を確認しながらTOEIC形式のリスニング、リーディングの練習問題に取り組みます。また、実際に使える英語力をつけることを目指し、速読や口頭練習も行います。

#### 内容

各授業のテーマ、関連語彙、文書のフォーマットなどを学び、それらを使用したTOEICのリスニング、リーディングの練習問題に取り組みます。

スコアアップを意識した講義や練習を行うと同時に、TOEICの学習を実際のコミュニケーションに活かせるよう4技能 (聴く・話す・読む・書く) につなげるための学習法を学び実践します。

1	オリエンテーション U1 Daily Life
2	U2 Places
3	U3 People
4	U4 Travel
5	U5 Business
6	U6 Office
7	U7 Technology
8	U8 Personnel
9	U9 Management
10	U10 Purchasing
11	U11 Finance
12	U12 Media
13	U13 Entertainment
14	U14 Health
15	総括

#### 評価

テスト70点、課題20点、授業への取り組み10点の合計で評価を行い、60点以上を合格とします。

#### 授業外学習

【事前予習】各課の新出語彙を予習しておくこと (Check Your Vocabulary! Words in Context)

【事後学修】各課の Self-study quizzes (p.99~) に取り組む。 各課パート3、4のシャ



ドウイングを行う。(シャドウイングの方法については、授業で指導します。) 各課の授業内で終了しなかった問題に取り組み、復習まで行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】水本篤, Mark D. Stafford, Successful Keys to the TOEIC Test 1 (2nd Edition), 桐原書店

【参考図書】『TOEICテスト新公式問題集』(Vol.5) Educational Testing Service

小石裕子 『新TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ!』アルク

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	柿元 資子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 ( 英語 ) / 中学校教諭一種免許状 ( 英語 )		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

TOEICを受験したことのない人、受験したけど点数が伸びず、どのように勉強してよいかわからないという人たちの為に開講される科目

##### 科目の概要

Chapter 1 ~ 7 はTOEICの各Partについての基礎的なことを学ぶ。各Partがどのような問題形式なのか、またどの程度の時間で一門を解かねばならないのかについて知る

Chapter 8 ~ 13 はTOEICの各Partを効率よく解くための基本的なストラテジー ( 戦略 ) を学んでいく

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

リスニング問題への取り組み方や文法及び読解問題における「押さえどころ」を学び、演習問題を通じてそれらを身につけることで、より効果的に各Partを攻略することを目指す

#### 内容

- 1 週目 本科目の目的、概要、成績評価基準等を確認する
- 2 週目 Part1の主な特徴&Part5の頻出問題；形容詞と副詞
- 3 週目 Part2の主な特徴&Part5の頻出問題；名詞と代名詞
- 4 週目 Part2の主な特徴&Part5の頻出問題；時制
- 5 週目 Part3の主な特徴&Part5の頻出問題；時制「完了形」
- 6 週目 Part4の主な特徴&Part5の頻出問題；受動態と動詞の形
- 7 週目 Part6の主な特徴&Part5の頻出問題；to不定詞
- 8 週目 Part7の主な特徴&Part5の頻出問題；接続詞と前置詞
- 9 週目 Part1の攻略法&Part5の復習問題
- 10 週目 Part2の攻略法&Part5の復習問題
- 11 週目 Part3の攻略法&Part5の復習問題
- 12 週目 Part4の攻略法&Part5の復習問題
- 13 週目 Part6の攻略法&Part5の復習問題
- 14 週目 Part7の攻略法&Part5の復習問題
- 15 週目 まとめ

#### 評価

試験90%、授業貢献度10%とし、総合評価60点以上を合格とする

## 授業外学習

【事前予習】該当するChapterに目を通してこるこ

【事後学修】該当するChapterの語彙、語句を復習すること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Strategic Learning for the TOEIC Test(森田光弘他2名著) 松柏社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

この科目は、英語能力試験の1つであるTOEICテスト受験のための、初級レベルの学生を対象とした準備クラスです。語彙、文法、リスニング、読解を総合的に学習して、実用的な英語運用能力を向上させ、TOEICテストに対応できる力を養成します。

TOEICテストにおいて、350点以上のスコア取得を目指します。

#### 内容

授業ではユニットごとに、TOEICテストの出題形式に沿った問題を解きながら、語彙、基本的な文法事項、リスニングとリーディングのためのストラテジーなどを学んでいきます。

知識の定着を図るために、授業で使用するテキストから隔週で語彙に関する小テストを実施します。

授業には積極的に参加し、予習・復習を行うようにしてください。

#### 講義計画

- 第1週 TOEICテストとは？
- 第2週 Shopping / 動詞
- 第3週 Daily Life / 名詞
- 第4週 Transportation / 代名詞
- 第5週 Jobs / 形容詞と副詞
- 第6週 Meals / 時制
- 第7週 Communication / 受動態と分詞
- 第8週 Fun / 動名詞と不定詞
- 第9週 Office Work / 助動詞
- 第10週 Meeting / 比較
- 第11週 Travel / 前置詞
- 第12週 Finance / 接続詞
- 第13週 Business / 関係詞
- 第14週 まとめ (1)
- 第15週 まとめ (2)

#### 評価

以下の割合で点数化し、60%以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験： 60%
- (2) 平常点： 40% ( 授業への参加度・小テスト・課題提出 )

#### 授業外学習

【事前予習】教科書の指定箇所を必ず予習して授業に臨んでください。

【事後学修】授業で学習した単語や表現を再確認し覚えてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】妻鳥千鶴子・田平真澄『First Time Trainer for the TOEIC TEST

- はじめてのTOEIC受験徹底対策』Cengage Learning

【参考図書・辞典等】授業で適宜紹介します。

科目名	英語資格試験準備講座		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

メディアコミュニケーション学科選択専門科目「英語資格試験準備講座」が複数開講されている中の、英検対策の講座です。既にTOEIC対策の講座を受講した人でも履修可能ですが、同時に2種類の準備講座は履修できません。（英検対策の準備講座の既習者も受講不可。）

英検やTOEICなどに挑戦したいけれど、単語を増やすにはどうすればよい？ 速く読めないけれどスピードを上げる方法とは？ この授業では、語彙力が限られていても、接辞の知識や文脈から推理して何倍にも増やし、易しいものは速読、難しいものは丁寧に読んで力を伸ばします。

同じジャンルの多読問題と精読問題の相乗効果を活かして、効率よく英検2級合格レベルの単語力を目指します。また、私たちのターゲットである英語の文章構成上の特徴を、章を追うごとに体系的に学んでいきます。同時に、出版社から教科書購入者数分届く音声CD を配布し、リスニングや面接に必要な発音も身に付けます。

## 内容

教科書の各章のPart 1は英検準2級レベルの長文（500語程度）の多読、Part 2は英検2級レベルの中文（250～300語）の精読です。

Part 1よりもPart 2に時間を多く割く予定なので、以下は目安です。英検2級や準2級の過去問も、適宜利用する予定です。

1	序章 Skim & Scan 「良い睡眠のための10か条」
2	第1章 Part 1 「ホロコースト生還者、支援者と再会」
3	第1章 Part 2 「杉原千畝」
4	第2章 Part 1 「差別撤退か逆差別か」
5	第2章 Part 2 「左利きと同性愛」
6	第3章 Part 1 「Abraham Lincolnの伝記」
7	第3章 Part 2 「White House Gardens」
8	第4章 Part 1 「ジュゴンとマナティー」
9	第4章 Part 2 「世界遺産Great Barrier Reefと文法」
10	第5章 Part 1 「20世紀の歴史」
11	第5章 Part 2 「紛争と戦争」
12	第6章 Part 1 「捕鯨の歴史」
13	第6章 Part 2 「過去と現在の捕鯨」
14	終章 語彙と文法の復習
15	まとめ

## 評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。また、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト、予習、課題提出)

#### 授業外学習

【事前学習】予習として、教科書の各Partの問題をできるだけ早く自力で解いた後、精読問題は辞書を使ってじっくり解いてください。第1～第6章の各章を2週で2時間程度使ってください。

【事後学修】教科書に載っている文章問題の中の単語を完璧に覚えてください。まとめや適宜行う小テストで確認します。毎週30分以上必要です。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】幸重美津子/石本哲子/岡田麻衣子/小原眞由美/田村朋子/松岡信哉/安田 優 編著, \_Technical Skills for Extensive and Intensive Reading\_ (『英語コミュニケーション力アップは多読と精読から』), 英宝社.

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	松永 修一、小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

本講義は「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である（「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は原則として本講義を履修すること。

#### 科目の概要

企業が求めている人材像（ビジネスマナー、社会人としての基本動作他）インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識にはインターンシップの内容、インターンシップを受ける際の基本的な常識などについて指導する。

#### 学修目標

インターンシップとは学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一貫とし、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職には必ずしも直結しないがインターンシップを経験することで積極的な就職活動が可能となる。

#### 内容

1	ガイダンス（講義の進め方の説明、注意事項など）
2	きぎょぶとはなにか、企業が期待する女性社員像
3	企業のインターンシップについて（インターンシップに参加した先輩の報告）
4	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 1
5	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 2
6	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 3
7	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 4
8	インターンシップ開催企業よりの内容紹介 5
9	自治体のインターンシップの内容紹介 1
10	ビジネスマナー講座 1
11	ビジネスマナー講座 2
12	ビジネスマナー講座 3
13	ビジネスマナー講座 4
14	インターンシップの応募手続き方法（学内・学外）
15	まとめ

#### 評価

授業への参加姿勢（40%）、適宜行うテストの結果（30%）、最終テストの評価（30%）

#### 授業外学習



【事前予習】各回の発表企業、自治体名を事前に通知するので、その会社、団体を事前に調査しておく。

【事後学修】当日発表した企業、団体と同じ業界の関連事項及びインターンシップ等の調査

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、掲示する。

科目名	インターンシップ実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が、可能になるよう準備する人材育策でもある。

#### 科目の概要

10日(65時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学習目標

多くの学生にはインターンシップに参加することで職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。その為には前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップの受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。また、確実な成果を上げるために、前期に開講される「インターンシップ入門」を受講すること。

#### 評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。

科目名	インターンシップ実習		
担当教員名	松永 修一、飯田 路佳、小野 裕次郎、向後 朋美 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が、可能になるよう準備する人材育策でもある。

##### 科目の概要

10日 (65時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

##### 学習目標

多くの学生にはインターンシップに参加することで職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 (心構え、情報や資料の収集等) をしっかり行うことが重要である。その為には前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップの受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。また、確実な成果を上げるために、前期に開講される「インターンシップ入門」を受講すること。

#### 評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	松永 修一、川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

アクティブラーニングによる参加型授業。共感と発見を目指し、自らのアクションを促す。

科目の概要

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

学修目標（＝到達目標）

豊かな人生とは何かを考え、実践、学び続ける力を身につけることを目標とする。

内容

- 1回 社会人基礎力養成（前に踏み出す力）
- 2回 社会人基礎力養成（考え抜く力）
- 3回 社会人基礎力養成（チームで働く力）
- 4回 インターンシップ報告
- 5回 FPによるマネー講座
- 6回 ライフデザインを考える
- 7回 ライフデザインワークショップ（モデルを探す）
- 8回 ライフデザインワークショップ（イメージから実践へ）
- 9回 メディアの変革と情報メディアの発展
- 10回 情報サービスとリテラシー
- 11回 ソーシャルメディア活用術
- 12回 演習
- 13回 演習
- 14回 演習
- 15回 振り返り

評価

課題を基に総合的に評価します。 授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】1週間のなかでの気づきの言語化、PDCAサイクル化

【事後学修】振り返りの言語化

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に説明します。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	松永 修一、小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が、可能になるよう準備する人材育策でもある。

##### 科目の概要

5日 ( 35時間 ) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

##### 学習目標

多くの学生にはインターンシップに参加することで職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 ( 心構え、情報や資料の収集等 ) をしっかり行うことが重要である。その為には前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップの受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

#### 評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

教科書は使用しない。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	松永 修一、小野 裕次郎、向後 朋美、加藤 亮介 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が、可能になるよう準備する人材育策でもある。

##### 科目の概要

5日 ( 35時間 ) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

##### 学習目標

多くの学生にはインターンシップに参加することで職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備 ( 心構え、情報や資料の収集等 ) をしっかり行うことが重要である。その為には前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップの受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

#### 評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

教科書は使用しない。

科目名	キャリア基礎力入門		
担当教員名	石野 榮一、小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するための基礎科目である。

#### 科目の概要

就職活動に関わる具体的な基礎力向上のために、特に非言語領域、数学、算数 の授業、問題演習を到達度別クラスに分かれて2年次に行う。

#### 学修目標

基礎的な非言語領域、数学、算数、および言語領域の演習を中心に行い、基礎的な学力の向上を図る。3年次には、授業キャリア基礎力応用を履修して就職試験に対応する力を養う。

#### 内容

1	ガイダンス、チェックテスト、必ず受験してください
2	非言語1
3	非言語2
4	非言語3
5	非言語4
6	非言語5
7	非言語6
8	非言語7
9	非言語8
10	非言語9
11	言語1
12	言語2
13	言語3
14	まとめ 1
15	まとめ 2

#### 評価

小テスト50点、期末テスト50点などをもとに、総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの未修ポイントの学習1時間

【事後学修】テキストを中心とした練習問題学習 1時間

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )



【教科書】授業中に指示

【推薦書】

【参考図書】

科目名	キャリア基礎力入門		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	01
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するための基礎科目である。

#### 科目の概要

就職活動に関わる具体的な基礎力向上のために、特に非言語領域、数学、算数 の授業、問題演習を到達度別クラスに分かれて2年次に行う。

#### 学修目標

基礎的な非言語領域、数学、算数、および言語領域の演習を中心に行い、基礎的な学力の向上を図る。3年次には、授業キャリア基礎力応用を履修して就職試験に対応する力を養う。

### 内容

1	ガイダンス、チェックテスト、必ず受験してください
2	非言語1
3	非言語2
4	非言語3
5	非言語4
6	非言語5
7	非言語6
8	非言語7
9	非言語8
10	非言語9
11	言語1
12	言語2
13	言語3
14	期末テスト 必ず受験してください
15	非言語10

### 評価

小テスト50点、期末テスト50点などをもとに、総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

### 授業外学習

【事前予習】テキストの未修ポイントの学習1時間

【事後学修】テキストを中心とした練習問題学習 1時間

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】授業中に指示

【推薦書】

【参考図書】

科目名	キャリア基礎力応用		
担当教員名	小野 裕次郎、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。

#### 科目の概要

就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

#### 学修目標(=到達目標)

就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指す。

内容	
1	ガイダンス、チェックテスト、必ず受験してください
2	非言語1
3	非言語2
4	非言語3
5	非言語4
6	非言語5
7	非言語6
8	非言語7
9	非言語8
10	非言語9
11	言語1
12	言語2
13	言語3
14	まとめ1
15	まとめ2

#### 評価

小テスト50点、期末テスト50点などをもとに、総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの未修ポイントの学習1時間

【事後学修】テキストを中心とした練習問題学習 1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示

【推薦書】

【参考図書】

科目名	キャリア基礎力応用		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	01
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。

#### 科目の概要

就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

#### 学修目標(=到達目標)

就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指す。

内容	
1	ガイダンス、チェックテスト、必ず受験してください
2	非言語1
3	非言語2
4	非言語3
5	非言語4
6	非言語5
7	非言語6
8	非言語7
9	非言語8
10	非言語9
11	言語1
12	言語2
13	言語3
14	期末テスト 必ず受験してください
15	非言語10

#### 評価

小テスト50点、期末テスト50点などをもとに、総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テキストの未修ポイントの学習1時間

【事後学修】テキストを中心とした練習問題学習 1時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目 ( 必修 )

科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

学修目標

- ・メディアと教育に関する理論背景を理解する
- ・関連するICT技術を習得する

#### 内容

ICT ( 情報通信技術 ) の普及により、教育分野 ( 学校、生涯学習 ) では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけでなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材 ( コンテンツ ) であればいいのか、活用の方法はどうか等、様々なこと ( 要因 ) を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術 ( Webページ、アニメーション、編集 ) を学びます。

演習は、毎回のテーマに沿って担当学生を決め、その担当学生がレポートする形式で進める予定である。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

#### 評価

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。

日常のゼミでの取り組み状況30%、ゼミでの課題50%、プレゼンテーション20%とし、合計60%以上で合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】テーマに関する資料の準備

【事後学修】事後評価

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

指定しない



科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

3年次演習として、卒業論文執筆の準備を行う。

この演習では、国際社会の諸問題を取り上げる。グローバル化が進む中、国際社会の出来事と日本国内の動きが密接な関係を持つようになってきた。政治、経済、社会、文化の側面で今何が起きているのか。地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会の動向にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

テーマ設定と同時に、問題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本について学ぶ。

#### 内容

第1回～第5回：基本的文献についての討論

第6回～第10回：参考文献、情報の収集方法

第11回～第13回：論文のまとめ方（ゼミ・レポート執筆）

第14回：ゼミ・レポート提出

第15回：レポート講評

#### 評価

発表、討論への参加（30%）、レポート（70%）で総合的に評価。再試験は行わない。

#### 授業外学習

【事前予習】課題の文献を読んで、内容をまとめ、わからなかった点をメモしておく。

【事後学修】演習での議論を参考にして、わからなかった点についての説明を加える。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】阿部和重 『幼少の帝国 - 成熟を拒否する日本人』新潮社、2012年

【参考書】大澤真幸、姜尚中（編）『ナショナリズム論・入門』有斐閣アルマ、2009年

加藤陽子 『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

インターネットによる現代社会の変化他、現代社会の諸問題を考える。

#### 科目の概要

時事問題の発表、現場訪問としてのフィールドスタディ、本を読みレジюмеを作成しての発表、自分の関心により選んだテーマで論文の技法に則ってのレポート作成などを予定している。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

現代社会の諸問題の検討を通じて自分の視点でものを見ること・考えること、卒業論文を作成する技法を身につけることをねらいとする。

#### 内容

- ・時事問題-各自の関心に沿ってテーマを選び発表する。お互いに質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・学外訪問-少子高齢化に関わる行政や介護・保育の現場、裁判の傍聴など学生の関心によって訪問先を決め現場の人に学ぶ
- ・本を読みレジюмеを作成しての発表-学生の関心に沿って本を選び発表する。著者の主張の理解、自分の視点からの問題提起を行う。
- ・レポート-自分の関心によりテーマを選定、論文・レポートの技法に則ったレポートの作成

#### 評価

平常点 ( 40% ) とゼミでの発表・提出物 ( 60% ) の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】時事問題の学修、授業テーマの予習
- 【事後学修】授業内容の整理、更なる問題意識の涵養

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

- 【推薦書】山田昌弘「新平等社会」文春文庫
- 沢木耕太郎「旅する力」新潮文庫

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力＝メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

## 内容

3年生の前半は各人の問題関心に関連する書籍を各人がこちらの指定する図書の中から選び、それを順番に発表してもらいます。

3年生の後半では、「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論＝産業研究、ジャーナリスト研究、送り手研究（メディア組織論）、内容分析（量的・質的）、受け手研究など＝を身につけてもらいます。同時進行で夏合宿で発表した卒論のテーマに関連する資料の発表をしてもらい、卒業論文のテーマを絞っていきます。

## ゼミイベント計画

3年春学期：

新歓！

夏合宿（伊豆）

3年秋学期：

課外学習(映画)？

卒研発表会参加＋最終コンパ！

## 評価

ゼミでの発表、提出物など。

## 授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」（共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年）

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	<b>演習</b>		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

メディアコミュニケーション学科の必修科目である。

本来芸術表現の一分野である身体表現は、人間の精神面、身体面を同時に発育調和させる最適な運動文化である。また、身体表現・ダンスは身体を動かすことで各人の思想や感情を表現することであるが、日常にも様々な「種」がころがっている。

そこで、このゼミでは、「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」など、様々なキーワードをもとに、ダンスから大きな意味での身体表現までアプローチしていく。

更に、人間として生きていく上で大切にしていきたいものをきちんと個々の立場から見つめ、今から一歩でも二歩でもステップアップした女性をみざして、そのためには何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする力をつけられるようにしていくことも目指している。

#### 内容

- 1) オリエンテーション ( 自己紹介、面接等 )
- 2) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 3) 桐華祭における身体表現発表を企画段階からプロデュースし、そのための必要な情報や技術、コンテンツを準備する ( 実技から裏方の準備まで )
- 4) 様々なキーワードをもとに、自らの卒論にすべきテーマを探す
- 5) 時事問題など社会の中から、自ら課題を選択し、それらの内、最も他のゼミのメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明  
それをもとにゼミのメンバーで議論する

#### 評価

平常点 60% 準備、調査、発表 40% その他議論の際の発言や、準備や発表に対する姿勢など総合的に評価し、6割以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】ゼミ内容に関連する内容の資料を準備し、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう予習する。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

適宜授業内で提示する

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

**科目の性格** 日常の道具の使いやすさを対象にする。心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

**科目の概要** 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。情報環境に限らず、具体的な道具を取り上げ、有効な道具の条件について考察したい。

**学修目標** 使いやすく、わかりやすく、使ってみたくなる、具体的な道具を制作したい。実際に制作する過程で、使いやすくする工夫が難しいことを理解して欲しい。さらに、弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

#### 内容

##### 1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

##### 2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

#### 評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

推薦書かつ参考図書 野島久雄 ( 訳 ) 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

2年次に専門科目の「ことばのしくみ」「英語学」を履修していない学生は、できるだけ3年次に履修してください。この演習を通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

##### 科目の概要

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

##### 学修目標 (= 到達目標)

(i) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii) 資料を自分で集め、整理、分析できることを目標とします。

#### 内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

#### 評価

(1) 期末レポート： 50%

(2) 授業内での発表： 50%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次回読む部分の事前準備シートを各自準備すること。

【事後学修】読んだ部分に関する疑問点をメモすること。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】授業内で指示します。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

## 内容

もし、言語音声に関連する科目である「ことばの心的メカニズムB, D」をまだ履修していなければ、演習Iと並行して履修してほしい。

本科目と演習IIとを合わせて、4年次の卒業研究へとつなげられるようにしたい。

【3年次前期】： 紙のノート（ルースリーフでないほうが望ましい）でもパソコンのファイルのプリントアウトでも良いので、ゼミ研究日誌をつける。このようなノートは、就職活動でゼミでは何をしているかと聞かれたときに役立つであろう。ゼミ担任と関心が合わない場合は、研究日誌は自分の関心に沿ったことだけを書いてもよろしい。

これまでの演習Iでは日本語音韻に関する本を読んだり、英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をしたりした。また、TOEICの問題集にゼミの時間を割いたこともある。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

なお、設楽ゼミではこれまで懇親会や旅行を催して、協力関係を育てている。

【3年次夏休み】： 次年度の卒業研究のための実験・調査を行うことが望ましい。最低限でも、シラバスで「演習II」の内容を参照のこと。

## 評価

研究日誌を50点、授業中のゼミへの積極的な参加度を50点として、合計60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】1時間程度を考えています。教材をゼミ生と話し合って決めたのち、指定します。

【事後学修】30分程度を考えています。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）



【教材】ゼミ生と話し合っ決めてます。

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声を科学する』新装版、大修館書店。

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論 (日英語対照による英語学演習シリーズ)』、くろしお出版。

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳 (2006)、『実践音声学入門』、大修館書店。

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

脳の認識機能を中心に学んでいくゼミです。認知心理や神経心理の手法を取り入れ、私たちが物事を認識していくしくみと構造を理解します。

#### 科目の概要

まず、心理学の基礎知識をはじめ、神経心理、脳機能研究を加えていきます。言語、音楽、数学、社会、図形、絵、などの認識プロセスを理解します。

#### 学修目標 ( = 到達目標 )

自分でテーマを見つけられるよう、脳の基本的な知識を整理します。

内容	
1	導入
2	脳と身体
3	脳の解剖学
4	脳と感覚
5	脳と運動、コントロール
6	脳と情動、感情
7	社会脳
8	記憶
9	思考
10	意識
11	脳の個別生
12	脳の発達と老化
13	脳と脳の病気
14	異常性
15	まとめ

#### 評価

授業への取り組み20%、平常点20%、レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書の指定箇所を読んでおく。

【事後学修】既習事項を整理して、演習全体との関連、自分の興味と結びつける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ ( 就活での自己PRの内容 ) を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。

体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

#### 内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

#### 評価

課題を基に総合的に評価します。授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。以下、提出物等の評価は、振り返り...1~7ポイント ( 提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント ) レポート・課題...3~8ポイント ( 6回以上 [ 授業2回につき 1つ程度課す ) 最終課題or試験...5~10ポイント

#### 授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。事前課題の確認。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

卒業研究の前段階として、各自今後の学習テーマを考える。また、ゼミナール内での議論を通し、各自の学習内容について検討する。

##### 科目の概要

自由な学習活動、ゼミナール内での意見交換により、自分の興味ある学習テーマを見出す。

##### 学修目標 (=到達目標)

1. 自己を振り返り、今後の学習テーマを探することができる。
2. グループで議論ができる。

#### 内容

各自の学習活動を通して、卒業研究に向けた学習テーマの候補を考える。

##### 例として

- ・コンピュータを利用した作品制作。
- ・アプリケーションの制作
- ・自然環境に関する学習
- ・身の回りの環境調査 など。

関連する参考文献、参考図書を各自探し、学習を進める。

ゼミナール内で興味ある学習内容について議論し、再検討する。

ゼミナールのまとめとして今後の学習の方向について文書化し、この時間に行った活動について報告書を作成する。

#### 評価

授業への参加度40%、最終時の報告書60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】前回までの進捗を確認し、今回やるべきことを整理しておく
- 【事後学修】調査結果等について再確認し、資料を整理しておく

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】使用しない
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアはよく「第4権力」と言われるが、この言葉の響きを必ずしもマイナスイメージだけでなく「国会・行政・司法」という3権をより成熟して自由な民主主義社会に導くための大切なもの」と捉えたい。そのためにはメディアが日々の活動を通して生み出す「コンテンツの自由と質」及び「メディアの屋台骨を支えるビジネス(いわばメディア産業論的視点)」の二面性(ロマンとソロバン)の吟味が欠かせないのであり、より実際に即して、その具体的な理解を図る。新聞社・テレビ局等マスメディアの現場ないしは政治・行政・司法等の第一線にも出向くことにより、コンテンツを発信する側の志や苦勞にも触れ、メディア及び広告等を含めた関連企業で働くことの意義も考える。

#### 内容

本ゼミでは、上記の基本的認識に立って、旧マスコミ4媒体(新聞・テレビ・ラジオ・雑誌)及びこれと関わるニューメディアの動静を意識し、「メディアのコンテンツ比較」や「メディアのコンテンツ制作の現場体験学習」等を行う。コンテンツ比較は、例えば新聞社説の読み比べ等であり、現場体験は、実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わり、これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマの構築深化はもとより、一生の一大事である「就職力・就業力アップ」を図り、「社会で逞しく生きる力」(リアリズム)を身に付ける。

#### 評価

授業への積極的な取り組み姿勢と、授業を踏まえ自分で考え行う力の達成度で評価

#### 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の時に随時提示。

科目名	演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。

科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

学修目標 ( =到達目標 )

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。

情報発信者としてのリテラシーを身につける。

内容

- 1.MIDI入力とエディット
- 2.音源 (ソフトシンセ) のエディット
- 3.オーディオ素材のエディット
- 4.エフェクト研究
- 5.ミキシング、エンコード
- 6.SoundCloudへのアップロードとシェア スマートフォンアプリとの連携
- 7.ブラウザによる音楽制作  
...Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作
- 8.ボーカロイド演習  
...ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード
- 9.BGM制作  
...映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	小笠原 典子、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

## ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

### 科目の性格

授業名称は「日本の四季・生活ニュース(食・自然・旅)」とする。コミュニケーション力、および日本語力向上を目指す留学生を対象とする。

### 科目の概要

日本の四季、生活ニュースに関する事柄を学ぶことで、日本語の力と日本のメディアから伝えられる言葉の背景理解を最高レベル(1級)まで高める。

### 学修目標 (=到達目標)

日本語能力の特段のアップと日本文化理解の一層の向上によって、人間力を身に付け、社会に役立つ人材(就職力・就業力)となることを目指す。

## 内容

春夏秋冬で食が変わり、目の前の自然が変わり、旅情を掻き立てる日本は、四季の移ろい(歳時記)そのものが生活ニュースであり、美しい日本文化をはぐくんだ源である。

世界の文化が融合する現代、日本の文化に惹かれて日本で学ぶ女子留学生に、「食・自然・旅」を中心テーマに深く日本を感じてもらい、同時に文化の国際比較も豊かに発信できる力を養うことを眼目とする。

日中の食文化比較をテーマにした雑誌での発表実績がある教員のデータをはじめ、日本の歳時記等を用いて受講生の日本理解に努め、日本の文化を体感できるゼミを展開する。折々のニュースで取り上げられる埼玉や東京の文化スポット散策も折に触れて実施する。

学内や新座市内を中心に取材や写真撮影を実際に行い、記事作成、編集技術学習を通して、編集力・文章力を一体化して学ぶ。卒業論文作成等を念頭におき、日本語文章力の一層の向上を目指す。また、人前での発表力(プレゼンテーション力)を鍛えるトレーニングを行う。

さらに7月、12月の日本語能力試験、6月・11月の時事問題検定試験(毎日新聞)の試験対策も実施し、キャリアアップも行う。

## 評価

授業への参加度40%、毎回の課題完成40%、授業を踏まえたキャリアアップの達成度20% とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】提示される課題について予習を行う。

【事後学修】学習したテーマ、および添削された提出物について復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業時に指示。

【推薦書】 授業時に指示。

【参考図書】 授業時に指示。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

卒業研究の前段階として、ひとつのテーマについて必要な情報・資料を収集し、調査・発表・議論する力を身につける。また、そこにおける表現の方法としての「制作」の手法を学んでいく。

##### 科目の概要

「メディア」に関するテーマを設定して、実際に調査・発表・議論を行う。各々の手法についてはゼミの中で議論し、より良いものにしていく。

##### 学修目標 (=到達目標)

1. 「メディア」に関して問題意識を持ってテーマを見つけ、それについて調査する意義を見出すことができる。
2. 調査・発表・議論の方法を理解し、よりよい結果に向けてグループで議論ができる。
3. また、表現としての「制作」の手法を自分で選択し、専門知識を得ること。

#### 内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション1
- (2) イントロダクション2
- (3) ~ (14) メディア研究
- (15) まとめ

#### 評価

参加態度(50%) 調査・発表における評価(50%)

#### 授業外学習

各前週に指示がある場合は、

少量コンテンツ(動画・新聞記事等)についての予習が必須となり、それを前提に議論を始める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目(必修)

科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

学修目標

- ・メディアと教育に関する理論背景を理解する
- ・関連するICT技術を習得する

内容

ICT(情報通信技術)の普及により、教育分野(学校、生涯学習)では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけでなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材(コンテンツ)であればいいのか、活用の方法はどうか等、様々なこと(要因)を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術(Webページ、アニメーション、編集)を学びます。

演習は、毎回のテーマに沿って担当学生を決め、その担当学生がレポートする形式で進める予定である。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

評価

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。

日常のゼミでの取り組み状況30%、ゼミでの課題50%、プレゼンテーション20%とし、合計60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】テーマに関する資料の準備

【事後学修】事後評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

指定しない

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

演習 に続けて履修し、卒業研究の準備を行う。

国際社会における政治、経済、文化の動きに関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始める。それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。

学期末に発表する論文を、卒業研究の第1段階と位置づけられるものとする。要望があれば、学園祭等でそれまでの調査結果を発表することも支援する。

#### 内容

第1回～第4回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5回：テーマ発表

第6回～第13回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14回：レポート体裁確認・提出

第15回：レポートの最終発表

#### 評価

発表・討論への参加 ( 30% ) レポート ( 70% ) で総合的に評価。再試験は行わない。

#### 授業外学習

【事前予習】 それぞれのテーマについての情報を集める。

【事後学修】 発表に対するコメントを参考に、情報を整理、分析する。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【推薦書】 白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』第2版 ミネルヴァ書房 2013年

【参考図書】 藤田真文 『メディアの卒論』 ミネルヴァ書房 2011年

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

時事問題等を踏まえた時代の変化をとらえ、現代社会の諸問題を考える。

##### 科目の概要

時事問題の発表、ディベート、ゼミ論と呼ぶ卒論のひな形としてのレポートの作成・発表などを予定している。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

時事問題等を通じて現代社会の諸問題をとりえ、自分の視点でものを見ること・考えること、卒業論文を作成する技法を身につけることをねらいとする。

#### 内容

- ・時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ディベート - 効果的な討論の仕方を学ぶ。
- ・ゼミ論 - 自分の関心によりテーマを選びレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。

#### 評価

平常点 ( 40% ) とゼミでの発表・提出物 ( 60% ) の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】時事問題を学修し、授業課題を予習する
- 【事後学修】授業で得た知識を踏まえて問題意識を進展させる

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

- 【推薦書】池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

マスメディアコース3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力＝メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

## 内容

3年生の前半は各人の問題関心に関連する書籍を各人がこちらの指定する図書の中から選び、それを順番に発表してもらいます。

3年生の後半では、「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論＝産業研究、ジャーナリスト研究、送り手研究（メディア組織論）、内容分析（量的・質的）、受け手研究など＝を身につけてもらいます。同時進行で夏合宿で発表した卒論のテーマに関連する資料の発表をしてもらい、卒業論文のテーマを絞っていきます。

## 評価

ゼミでの発表、提出物など。

## 授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」（共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年）

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方 」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー 』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）



科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

この授業は、社会情報人間生活学部メディアコミュニケーション学科の演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

#### 科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

後期の「演習II」となると、動き中心から、ワークショップ形式を多く取り入れ、ゼミ生自身で問題発見、解決を導くような手法をとるようにする。

#### 学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く

#### 内容

- 1) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にすべきテーマを探す
- 2) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 3) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方(場合によっては相容れないこともあること)を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。(実技から裏方の技術まで)この部分は少しウェイトが軽くなる。
- 6) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。
- 7) 実技だけでなく人に伝える力、自ら考える力を備えるため、必要な知識、情報収集、共有、議論を経てプレゼンを行う。

#### 評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価し、6割以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する資料を収集し、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度適宜提示する。

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

**科目の性格** 日常の道具の使いやすさを対象にする。心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

**科目の概要** 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。情報環境に限らず、具体的な道具を取り上げ、有効な道具の条件について考察したい。

**学修目標** 使いやすく、わかりやすく、使ってみたくなる、具体的な道具を制作したい。実際に制作する過程で、使いやすくする工夫が難しいことを理解して欲しい。さらに、弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

#### 内容

##### 1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

##### 2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

#### 評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

推薦書かつ参考図書 野島久雄 ( 訳 ) 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

2年次に専門科目の「ことばのしくみ」「英語学」を履修していない学生は、できるだけ3年次に履修してください。この演習を通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

##### 科目の概要

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

##### 学修目標(=到達目標)

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii)資料を自分で集め、整理、分析できることを目標とします。

#### 内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

#### 評価

(1) 期末レポート： 50%

(2) 授業内での発表： 50%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】次回読む部分の事前準備シートを各自準備すること。

【事後学修】読んだ部分に関する疑問点・コメントなどをメモすること。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

メディアコミュニケーション学科専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

## 内容

もし、言語音声に関連する科目である「ナレーションB (英語)」をまだ履修していなければ、演習IIと並行して履修してほしい。

本科目の研究内容を4年次の卒業研究へとつなげるために、演習Iに引き続いてゼミ研究日誌をつけ、それを使って学期末のレポートを作成する。

これまでの演習Iでは日本語音韻に関する本を読んだり、英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をしたりした。また、TOEICの問題集にゼミの時間を割いたこともある。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

【3年次夏休み】： 各自、自分の関心を第一に考えて、演習 I のレポートのテーマを考え、4年次の卒業研究の一部とするように心がける。自分の好きな事柄でないと卒業論文につながらないので、言語音声に関係ないテーマでもよい。テーマをきめるために、当然この時期の読書や取材・実験・調査も必要である。

【3年次後期】： ゼミ生の関心にできるだけ沿った書籍の一部分や論文を数点読む。ゼミ生はその都度研究日誌に書き足していく。研究日誌を使って、演習 I の最終レポートをつくる。これは、卒業研究論文の一部とすることが望ましい。

なお、最近3年次後期にはゼミ旅行は企画しないようにしているが、以前は一泊旅行をしたこともある。つらい就職活動の合間に、簡単な懇親会をして激励しあうのはいいと考える。

## 評価

最終レポートを60点、研究日誌を40点として、合計60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】1時間程度を考えています。ゼミ生と決めた教材により指定する。

【事後学修】30分程度を考えている。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声を科学する』新装版、大修館書店

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論（日英語対照による英語学演習シリーズ）』、くろしお出版

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳 (2006)、『実践音声学入門』、大修館書店

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

脳の認識機能を中心に学んでいくゼミです。認知心理や神経心理の手法を取り入れ、私たちが物事を認識していくしくみと構造を理解します。

#### 科目の概要

まず、心理学の基礎知識をはじめ、神経心理、脳機能研究を加えていきます。言語、音楽、数学、社会、図形、絵、などの認識プロセスを理解します。

#### 学修目標 ( =到達目標 )

自分でテーマを見つけられるよう、脳の基本的な知識を整理します。

#### 内容

1	導入
2	脳の背景と方法論
3	認知心理の歴史
4	人経過色の構造と機能
5	認知神経学の方法
6	コアプロセス
7	脳の半球の機能
8	感覚と認識
9	物体認識
10	注意
11	行動
12	情動コントロール
13	言語
14	社会認識
15	まとめ

#### 評価

授業根の取り組み20%、平常点20%、レポートの完成度60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】教科書の指定箇所をあらかじめ読んでおく。

【事後学修】既習事項を整理し、演習全体のなかでの位置づけ、興味との関連を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント

【推薦書】

【参考図書】



科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。

体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

#### 内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

#### 評価

課題を基に総合的に評価します。授業への参加意欲25%、授業ごとに提出する振り返りシート35%、提出物40%で総合して評価する。以下、提出物等の評価は、振り返り...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度課す]) 最終課題or試験...5~10ポイント

#### 授業外学習

【事前予習】1週間の中での体験経験を言語化、その中からPDCAサイクルを導き出す。事前課題の確認。

【事後学修】毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良

い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の中で指示

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

卒業研究の前段階として、仮の研究テーマを決める。また、レポートの書き方について、その作法を確認する。

##### 科目の概要

卒業研究に向けて、テーマを決め、研究方法についておおよその計画を立てる。また、研究に必要な参考文献、アプリケーションなどを揃える。

##### 学修目標 ( =到達目標 )

1. 卒業研究の(仮の)テーマを決める
2. 研究方法について見通しを立てることができる
3. レポートの作法を身に着ける

#### 内容

前期のゼミナールで考えた今後の学習テーマの候補のうちから、(仮の)卒業研究のテーマを決める。

さらに、

- ・研究の結果について予想を立てる
- ・研究の方法についておおよその計画を立てる
- ・研究に必要な参考文献・アプリケーション等を探し、揃える
- ・レポートの書き方についてもう一度見直し、作法を確認しておく

このゼミナールが終了するまでに、テーマ、研究結果の予想、おおよその計画について文章化する。

#### 評価

授業への参加度40%、最終時の報告書60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】前回までの進捗を確認し、今回やるべきことを整理しておく
- 【事後学修】調査結果等について再確認し、資料を整理しておく

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

- 【教科書】使用しない
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアはよく「第4権力」と言われるが、この言葉の響きを必ずしもマイナスイメージだけでなく「国会・行政・司法」という3権をより成熟して自由な民主主義社会に導くための大切なもの」と捉えたい。そのためにはメディアが日々の活動を通して生み出す「コンテンツの自由と質」と「メディアの屋台骨を支えるビジネス(いわばメディア産業論的視点)」の二面性(ロマンとソロバン)の吟味が欠かせないのであり、より実際に即して、その具体的な理解を図る。新聞社・テレビ局等マスメディアの現場にも出向くことにより、コンテンツを発信する側の志と苦勞にも触れ、メディア及び広告等を含めた関連企業で働くことの意義も考える。

## 内容

本ゼミでは、上記の基本的認識に立って、旧マスコミ4媒体(新聞・テレビ・ラジオ・雑誌)及びこれと関わるニューメディアの動静を意識し、「メディアのコンテンツ比較」や「メディアのコンテンツ制作の現場体験学習」等を行う。コンテンツ比較は、例えば新聞社説の読み比べ等であり、現場体験は、実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わり、これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマの構築深化はもとより、一生の一大事である「就職力・就業力アップ」を図り、「社会で逞しく生きる力」(リアリズム)を身に付ける。

## 評価

授業への積極的な取り組み姿勢と、授業を踏まえ自分で考え行う力の達成度で評価

## 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の時に随時提示。

科目名	演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。

##### 科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

##### 学修目標 ( =到達目標 )

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。

情報発信者としてのリテラシーを身につける。

#### 内容

##### 1. ブラウザによる音楽制作

...Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作

##### 2. ボーカロイド演習

...ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード

##### 3. BGM制作

...映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

#### 評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。また、映画鑑賞やテレビ番組を視聴する際も背景の「音」に着目してみることを習慣にする。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

##### 【教科書】

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

ボーカロイドを思い通りに歌わせる本 Nagie 著 リットーミュージック

##### 【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	小笠原 典子、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

授業名称は「日本の四季・生活ニュース(食・自然・旅)」とする。コミュニケーション力、および日本語力向上を目指す留学生を対象とする。

##### 科目の概要

日本の四季、生活ニュースに関する事柄を学ぶことで、日本語の力と日本のメディアから伝えられる言葉の背景理解を最高レベル(1級)まで高める。

##### 学修目標 (=到達目標)

日本語能力の特段のアップと日本文化理解の一層の向上によって、人間力を身に付け、社会に役立つ人材(就職力・就業力)となることを目指す。

#### 内容

春夏秋冬で食が変わり、目の前の自然が変わり、旅情を掻き立てる日本は、四季の移ろい(歳時記)そのものが生活ニュースであり、美しい日本文化をはぐくんだ源である。

世界の文化が融合する現代、日本の文化に惹かれて日本で学ぶ女子留学生に、「食・自然・旅」を中心テーマに深く日本を感じてもらい、同時に文化の国際比較も豊かに発信できる力を養うことを眼目とする。

日中の食文化比較をテーマにした雑誌での発表実績がある教員のデータをはじめ、日本の歳時記等を用いて受講生の日本理解に努め、日本の文化を体感できるゼミを展開する。折々のニュースで取り上げられる埼玉や東京の文化スポット散策も折に触れて実施する。

学内や新座市内を中心に取材や写真撮影を実際に行い、記事作成、編集技術学習を通して、編集力・文章力を一体化して学ぶ。卒業論文作成等を念頭におき、日本語文章力の一層の向上を目指す。また、人前での発表力(プレゼンテーション力)を鍛えるトレーニングを行う。

さらに7月、12月の日本語能力試験、6月・11月の時事問題検定試験(毎日新聞)の試験対策も実施し、キャリアアップも行う。

#### 評価

授業への参加度40%、毎回の課題完成40%、授業を踏まえたキャリアアップの達成度20% とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】提示される課題について予習を行う。

【事後学修】学習したテーマ、および添削された提出物について復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業時に指示。

【推薦書】 授業時に指示。

【参考図書】 授業時に指示。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Qクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

卒業研究の前段階として、ひとつのテーマについて必要な情報・資料を収集し、調査・発表・議論する力を身につける。また、そこにおける表現の方法としての「制作」の手法を学んでいく。

##### 科目の概要

「メディア」に関するテーマを設定して、実際に調査・発表・議論を行う。各々の手法についてはゼミの中で議論し、より良いものにしていく。

##### 学修目標(=到達目標)

1. 演習 で各々扱ったテーマを、卒業研究のテーマとして進展させる。
2. 各々が選択した「制作」の手法をもって、卒業研究の中に組み込む。

#### 内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション1
- (2) イントロダクション2
- (3)～(14) メディア研究
- (15) まとめ

#### 評価

参加態度(50%) 調査・発表における評価(50%)

#### 授業外学習

各前週に指示がある場合は、  
少量コンテンツ(動画・新聞記事等)についての予習が必須となり、それを前提に議論を始める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示



科目名	卒業研究		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

学科専門科目の必修科目である。

##### 科目の概要

3年次までに修得した知識・技術に基づき、学生自らが特定の具体的課題に対して主体的に取り組み、最終的にその成果を卒業研究としてまとめる。学部での学修の集大成として、この1年間を実りあるものにすることを期待する。

##### 学修目標 (= 到達目標)

卒業研究、卒業論文を仕上げる。

#### 内容

内容としては、メディア、インターネットなどといった情報技術を応用して、主に教育分野 ( 学校、生涯 ) へ適応できる情報システム、コンテンツのあり方、及び開発を念頭に置く。

方法は、実験を主とした研究、調査を主とした研究、測定を主とした研究、資料・文献による研究、作品・コンテンツを中心とした研究、などによる。

いずれも論文と成果物 ( 作品、コンテンツ、プログラム ) を必要とし、研究にあたり各自テーマを設定し、計画的に進めることが必要である。

3年次終了時に、仮テーマを決定する。

4年前期は、基本的な情報収集、開発するコンテンツやシステムの設計、研究テーマ、目的・研究方法の確立をし、夏休み前には具体的な計画に従って研究が遂行できるように準備を進める。

4年後期は、それぞれの計画に従って研究を進め、最終的な研究を仕上げる。

研究テーマは、学生各自で異なるので、適当な時間を使いながら定期的のうち合わせ、進捗状況の報告などを行うこととする。

#### 評価

卒業研究として内容・方法が適切なものであるか、また、論文・作品が期日までに提出され、卒研発表会でのプレゼンテーションが適当であったかを評価の対象にする。論文の内容・成果物を60%、発表会でのプレゼンテーション40%とし、合計評価が60%以上で合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】卒業研究に必要な調査、実験、制作などをおこなう

【事後学修】論文等の形式で正課をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

指定しない

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

3年次の「演習・」で学んだ日本及び国際社会の特徴についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

前期は情報収集と整理、後期は集めた情報の体系的分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。適宜発表を行い、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。

議論を通じて明確な文章を備えた、わかりやすい文章作成を行う。

#### これまでの卒業論文のテーマ

「食と地球環境問題」、「エコロジー流行の実態」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「異文化理解と教育」、「イラク戦争開戦の背景」、「小国の独立 - 少数民族の民族意識」、「ディズニーの買わせる技」、「ジブリとディズニーから見る現代に息づく日本の思想」など。

#### 内容

##### 前期

第1回～第5回：個々のテーマ選択、問題提起

第6回～第11回：テーマに関する情報収集

第12回～第14回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備

第15回：テーマ発表会

##### 後期

第1回～第5回：リサーチの経過報告

第6回：テーマの最終決定

第7回～第11回：リサーチ及び論文執筆

第12回～第14回：論文形式の最終確認

第15回：卒論発表会

#### 評価

発表・討論への参加(25%)、中間報告(25%)、卒業論文または制作物(50%)で総合的に評価

#### 授業外学習

【事前予習】 それぞれのテーマについて情報を収集し、発表の準備をする。

【事後学修】 発表後の議論で指摘された点を参考に、文章化する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

現代社会の諸問題から自分の問題意識によりテーマを選定し、卒業研究としての卒業論文を完成させていく

#### 科目の概要

卒業論文のテーマ、問題意識、目次構成、参考文献を記した卒論中間報告を作成、その上で卒業論文を作成していく

#### 学修目標 ( =到達目標 )

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする

#### 内容

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを調べ集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

#### 評価

卒業論文(80%)、卒業論文の発表と平常点(20%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】卒業研究作成の上での問題点、相談事項などをまとめておく
- 【事後学修】授業での指導を踏まえて卒業研究についての自分の考え・方向性を明確にする

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

- 【推薦書】白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容 ( 70% ) および討論内容 ( 30% )

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つ

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認する

教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

推薦書

『メディア用語基本事典』 ( 世界思想社 )

田中浩編著 『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』 所収、P.216-232 龍星出版、1996年 )

田村、林、大井編 『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』 所収、p.178-195. 世界思想社、2004年 )

『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー 』 p. 40-54. 小玉美意子編著 ( 新曜社、2008年 )

科目名	卒業研究		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめる。

#### 内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。前期はそのための知識や情報を収集する期間として、各自の参考文献や共通な文献の読み合い、意見の出し合いなどしながら各自の考え方を固めていくことも同時に行っていく。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成 ( 卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表 )
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒研発表パネルセッションでのプレゼン
5. 身体表現ゼミ卒業研究会における発表

( 以下は、平成26年度の卒研課題例 )

TRPGとは何か～ゲームの観察から

映像と音楽の調和と融合～イメージの捉え方～

女子大生における理想の健康と現実～自分の各種測定値を元にして～

「体育会系女子」とその変容～ボーイッシュと女性らしさについての一考察

女子大生の月経に対する意識の現状～月経に向き合うことの大切さ～

家族とは何か～非嫡出子相続分規定違憲訴訟から見えること～

初音ミクからみる次世代アイドルのカタチ

スポーツにおける女性の強さ～オリンピック日本女子代表選手に着目して

身体表現が魅せる可能性～私と光と映像と～

#### 評価

準備状況等 50% 卒業研究内容 50% その他桐華祭参加状況、その他ゼミイベント参加状況、下級生教育等 総合的に評価し、6割以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】自らの研究テーマに関連する内容に関連する資料を準備し、研究の進行を予習の中で進め、授業時間帯には、質問や意見、ゼミ生同士の討議ができるよう準備する。

【事後学修】授業で確認した内容を研究に反映し、進行のスピードが遅くならないようにする。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

適宜指示する



科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする。心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。情報環境に限らず、具体的な道具を取り上げ、有効な道具の条件について考察したい。

学修目標 使いやすく、わかりやすく、使ってみたくなる、具体的な道具を制作したい。実際に制作する過程で、使いやすくする工夫が難しいことを理解して欲しい。さらに、弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

#### 内容

##### 1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

##### 2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

#### 評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

事前準備 日常生活における道具の観察。1時間

事後学修 自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。1時間

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

推薦書かつ参考図書 野島久雄 ( 訳 ) 誰のためのデザイン 新曜社

科目名	卒業研究		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

「ことばの心的メカニズムA」、「演習I・II」の内容が基礎となります。

#### 科目の概要

前期は言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に、各自が興味を持った分野について、基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、卒業論文の執筆を始めます。後期は前期で学んだことを発展させ、各自の選んだテーマに沿った卒業論文の指導を行います。

#### 学修目標 (= 到達目標)

前期は、(i)研究テーマの設定ができる、(ii)先行文献を批判的に読み、研究テーマの方向性を決める、(iii)先行文献の内容をまとめることができることを目標とします。後期は、(i)研究テーマに沿った資料を自分の手で集めることができる、(ii)集めた資料を分析し、自分なりの主張を論じることができることを目標にします。

#### 内容

前期は、研究内容にかかわる先行研究を丁寧に読み、まとめるという作業を行いません。

後期は、卒研究に向けて、テーマの立て方、参考資料などの文献検索の方法、卒業論文の書き方などを指導します。卒業研究では、学生各自のテーマを設定し、それに添った形で発表をしてもらいます。毎週、それを添削します。積極的な授業参加が望まれます。

#### 評価

(1)平常点 ( レジюме、毎授業での発表 ) ( 40% )

(2)卒業論文 ( 60% )

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】参考図書の指定された箇所を読んでおくこと。論文作成に入ったら、執筆予定箇所の原稿をプリントアウトしてくこと。

【事後学修】論文作成に入ったら、添削、コメントの入った部分を次回までに修正してくこと。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

【推薦書】なし

【参考図書】各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科専門必修科目。

メディアやコミュニケーションについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

情報や考え方の出典の明記に特に注意する。

## 内容

昨年度の3年次演習I, IIでは、英語の映画を通して、英語表現やその音声について観察を行った。ゼミ研究日誌の奨励・チェックがあまりできなかったが、早くゼミレポートを卒業研究日誌へ発展させて、その充実に努めてほしい。

これまでの設楽ゼミ生の卒論の例は次の通り。

- \* 中国のテレビ放送文化について
- \* 久石譲が作るジブリ作品の曲
- \* 文科省の学校英語教育方針について、社会の変化との兼ね合いを調べた論文
- \* 映画『ハリーポッター』の面白さの分析
- \* 日本の戯曲とその英訳の比較
- \* 80年代、90年代、2000年代のテレビドラマのせりふに現れる日本語の男女差を終助詞に注目して分析した論文
- \* 英語の同音異義語が聞き取り問題に与える影響を実験した論文

卒業研究の進捗状況のチェックは次のように行う。

- \* 4年次4月～6月： 問題の分析、先行研究の分析、問題の修正、仮説の明確化、観察・実験の計画
- \* 4年次7月～10月： 観察・実験・取材
- \* 4年次11月～12月初旬： 文章化・添削

卒業論文執筆・就職活動・内定先研修・卒業旅行などの時間配分を計画的に行っていただきたい。他大学で卒業研究が選択制なところも多いため、就職内定企業が卒業論文執筆時期に研修を勤めることがあるので、執筆時間を確保することには特に注意していただきたい。

## 評価

卒業研究ノートの評価を60点、卒業研究論文(作品制作)の評価を40点とし、計60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】とにかく早期に仮説を立て、検証方針を考え、専攻研究に当たってください。就職活動で忙しいときも週1時

間は最低必要です。

【事後学修】ゼミ生やゼミ担任からの意見を考慮して、仮説や検証方針を修正して研究を続行してください。週30分は最低必要です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業論文を書き上げるために必要な知識を整理し、修得します。

科目の概要

データ分析と理解、論文の構成を扱います。

学修目標 (= 到達目標)

論文完成

内容	
1	導入
2	論文の構成要素
3	論文の構造
4	経験的方法の利用
5	古典的手法、統計的手法
6	論文構成の時間
7	常識と主題の選択
8	対象としての常識
9	物事の整理
10	判断
11	反省的方法
12	肯定と知識
13	客観性の成立
14	方法論
15	まとめ

評価

授業への取り組み20%、平常点20%、論文の作成過程60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 予定箇所のプリントを読んでおく。

【事後学修】 既習事項を整理しておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

##### 科目の概要

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ（就活での自己PRの内容）の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。

##### 学修目標 ( =到達目標 )

体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得！」です。

#### 内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

#### 評価

卒業研究中間発表提出物による評価...30%、授業への参加態度...20%

卒業研究最終提出物・卒業研究発表会...30%、授業への参加態度...20%

総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】個人の卒業研究テーマの進捗報告準備。ゼミでのプロジェクト進捗報告準備。

【事後学修】獲得したポイントにより下記のように評価します。\*毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に説明します。



科目名	卒業研究		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

##### 科目の概要

卒業論文の執筆、または卒業制作を行う。年間でスケジュールをたて、目標設定から調査、章立て、執筆と計画的に行う。

##### 学修目標 ( = 到達目標 )

1. 3年の演習時にたてた筋道に従い、計画的に卒業論文を書き進めることができる。
2. 卒業論文を論文の体裁に則って作成することができる。
3. 卒業論文作成後、推敲を行い、完成度を高めることができる。

#### 内容

- ・漠然としたテーマでなく、どこまでを明らかにするのか明確な目標を設定する。
- ・仮説をたてる。その仮説に関して調査を進めることが望ましい。
- ・様々な文献を調査して、客観性の高い結論を導く。
- ・論文の体裁を理解して、それに則って書き進める。
- ・自分で推敲することができるよう、余裕をもって卒業論文の作成をする。  
推敲には書き上げたのち、少し期間をおいてなるべく客観的に読むことが必要である。
- ・議論を通して、より良いものを目指していく。
- ・締め切りに間に合うよう、計画的に研究を進めていく。

#### 評価

卒業論文または卒業制作への取り組み80%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】前回からの進捗についてまとめておく。
- 【事後学修】自分の計画に従って研究を進める。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】木下是雄、理科系の作文技術、中公新書
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

メディアはよく「第4権力」と言われるが、この言葉の響きを必ずしもマイナスイメージだけでなく「国会・行政・司法」という3権をより成熟して自由な民主主義社会に導くための大切なもの」と捉えたい。そのためにはメディアが日々の活動を通して生み出す「コンテンツの自由と質」と「メディアの屋台骨を支えるビジネス（いわばメディア産業論的視点）」の二面性（ロマンとソロバン）の吟味が欠かせないのであり、より実際に即して、その具体的な理解を図る。

折々に新聞社やテレビ局等マスメディアの現場にも出向くことにより、卒業研究はもとより、就職活動の参考にも資する。

## 内容

本ゼミでは、上記の基本的認識に立って、旧マスコミ4媒体（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）及びこれと関わるニューメディア等の企業のリアルな動静を学び「メディアのコンテンツ制作の現場体験学習」等を行う。

3年のゼミでは、「新聞などの旧メディア」「広告コンテンツ」等、各自が関心を持つメディアの展開について「まとめ・提言」をゼミ内で行ったが、これら（新テーマも含め）を「卒業研究」に仕上げる。卒業研究の内容を重厚なものとするため、新聞社やテレビ局、出版社等の見学を通してマスメディアで働く人の肉声に触れる。このほかフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として関わり、社会で問われるコミュニケーション能力（書く力・読む力・話す力・聞く力）を向上させる。大学時代にこれをやった、と誇ることのできる「集中的な知的作業の達成感」は社会に巣立つ時の大事な評価である。

社会で競争に勝つ文章力 バランス感覚豊かな編集力から生まれる企画力 人間洞察と数字に裏打ちされた交渉力 日程を踏まえた確かな段取りの力 をゼミ生が常に頭を働かせる環境下の能動的な授業を通して総合的に磨き上げ、「卒業研究」の完成自体も、「就職力・就業力」に収斂させていく。

## 評価

授業に対する取り組み姿勢と授業を踏まえて自分で考え行う力を評価。

## 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の時に提示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

卒業研究を作成するために、調査や文献講読、発表などを行う。

#### 科目の概要

- 1) 卒業研究に必要な資料収集、データ収集、レジюме作成、発表、討論の方法や、レポート作成技法などについて学ぶ。
- 2) インタビューをしてさまざまな文化現象に関わる人たちと交流し、文献や映像資料を集めて内容を分析することを通じて、社会のなかで、文化やメディアがどのように機能しているかを学ぶ。
- 3) 自分自身の研究対象について書かれた本や関連する資料(雑誌、映像、サイトなど)を読み、調査してきた内容とつぎ合わせながら、レジюмеをまとめ、最終的に、ひとつの論文にまとめていく。

#### 学修目標

みなさんが興味を持っている現代社会のさまざまな文化現象を、メディアとの関係を中心に調査したり討論したりしていく。実際に街に出てインタビューをしたり、さまざまな文化現象に関わる人たちとの交流を通じて、社会のなかで文化やメディアがどのように機能しているかを学び、コミュニケーション能力、交渉力や調整能力を高めていくことがこのゼミの目標になる。

#### 内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション
- (2) 調査1
- (3) 調査2
- (4) 調査3
- (5) 調査4
- (6) 発表1
- (7) 発表2
- (8) 発表3
- (9) 発表4
- (10) 分析1
- (11) 分析2
- (12) 分析3
- (13) 分析4
- (14) まとめ1
- (15) まとめ2

## 評価

平常点（25%）授業への参加（25%）提出物や課題（50%）

## 授業外学習

【事前予習】使用する文献を読みレジユメを作成すること

【事後学修】ゼミでの議論を受けて論文を作成すること

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	大西 正行、池間 里代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

前年度の演習で学んだ「日本の四季」(食・自然・旅等)をもとに、各自がテーマを設定し、日本文化についての研究を進める。

参考文献・先行研究の収集、取材、考察を経て文章化する。

以上のことを通して、日本の文化やこれを伝える日本のメディアに対する理解を深める。

これらの作業の集大成として、各自が論文を執筆する。

論文作成と併せ、前年度から取り組んでいる日本語能力(文章力と話す力)のさらなる向上に特段の努力を重ねるプロセスの中で各種資格取得にも積極的に取り組み、就職はもとより、大学院進学の実現できるよう指導する。

#### 内容

留学生からみた日本文化を考察し、異文化理解の視点からテーマを設定する。既に3年次の演習においても、旅行雑誌の国際比較・テレビ司会者などに関心を深めている学生も少なくなく、さらにゼミ生が具体的なテーマを精査し、中間報告会などを設定し、論文化へのきめ細かな作業を進める。

互いの報告を聞き、批評し合うことにより、テーマへのアプローチを確かなものとする。

テーマがゼミ生全員が共有すべき内容として評価される場合や、テーマの深化がゼミ生全員の知的陶冶に結びつく場合は、共同で調査研究を進めることも展望する。かねて留学生は、雑誌やフリーペーパー、WEB等の成果物作成に高い関心を寄せ、言語のみならず編集スキルを日本で身に付けようとするモチベーションが高いことから、本学に設けられたクリエイティブな授業や活動にも積極的に参加する機会を持つよう促す。

留学生という立場を踏まえた就職相談、大学院への進学相談の機会を多く持ち、希望する進路に少しでも近づける道筋を教員とゼミ生と一緒に探る。

#### 評価

授業に対する取り組み姿勢と、授業を踏まえ自分で考え行う力を評価。

#### 授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の時に提示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) -メディアコミュニケーション学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

卒業研究に向け、目標を定めて課題制作に取り組む。

#### 科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

#### 学修目標 ( =到達目標 )

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。

情報発信者としてのリテラシーを身につける。

#### 内容

1. オーディオ編集のテクニック
2. エフェクト研究～応用編その1
3. エフェクト研究～応用編その2
4. 理論実習
5. スタイル別アレンジ講座
6. 卒業作品制作、副論文作成

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

#### 評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

【教科書】

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

【参考図書】

科目名	メディア社会論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】



科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ニュースと社会		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】



科目名	脳とコミュニケーション		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】



科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	文章表現（基礎）		
担当教員名	荻 太、石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-メディアコミュニケーション学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】